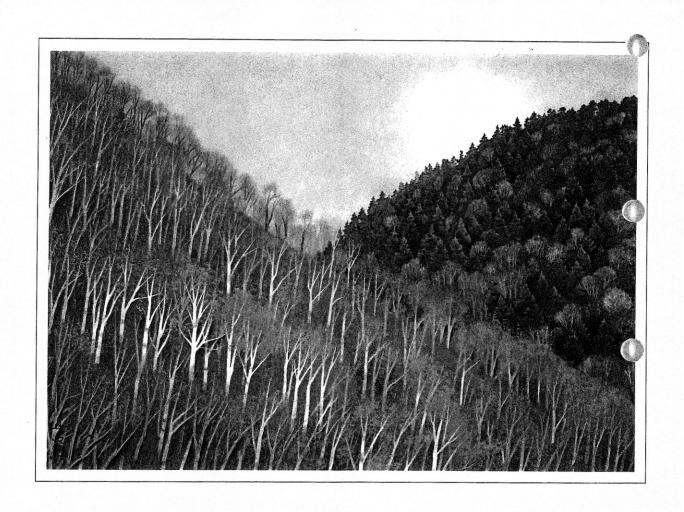
## 国民と森林

1993年·新春第 43 号



国民森林会議



# 日然教育は、根よく

は「日ますが。 一最近の子供の "木離れ" も進んでいると

平田 中学の技術科の授業で木を使うと、平田 中学の技術科の授業で木を使うと、「非の数ななったいなやさしく加工できるものを使うたらえたいなやさしく加工できるものを使うたらえたいなやさしく加工できるものを使うたらえたいなやさしく加工できるものを使うたらえたいなやさしく加工できるものを使うたらえたいなやさしく加工できるものを使うと、「本教だけなど検討すべきことは多い。

すが、子供の世界では。――自然が大切といわれ、森に親しむ時代で

自然林は多様な生態系を内臓しているが、人あるのではないか。林業サイドからいうと、浸透しているが、生態系のなかにもいろいろ自然の感じ方の中に「生態」ということが

ていないようだ。しての生態のパターンがあることが認識され上林もそれと同じほどではないが、人工林と

ている。 違った適応をする。例えば人間以外の生物は の要因と主体の間に相互作用がある。人間が く外囲総合されたものを環境という認識をし なかで生きるとかを工夫する機会が無くなっ いる。自分で物を作り、自然の厳しい環境の ば簡単に道具を手に入れ適応できると考えて 特に最近の世相は経済万能で、お金さえあれ 科学技術の進歩で道具を作って適応してきた。 もつ知恵が、科学、技術をうみ、その知恵、 たり球根や卵・蛹で越す。自然本能的適応だ。 寒くなれば、冬眠や毛替え、越冬を種子でし 環境要因からの影響を受けたら他の生物とは ている。外囲の一つひとつが環境要因だ。そ 人間はその本能的適応が退化したが、人間の だから子供にも道具的発想が浸透している。 私の環境観は、主体があってそれを取り巻

の必要性を強調されていたが。 ―先生は奈良教育大学のときから自然教育

学習」にも参加し、現場へもなるべく歩いてきた。退官にあたって演習林の宿舎で記念パーきた。退官にあたって演習林の宿舎で記念パーきた。退官にあたって演習林の宿舎で記念パーきた。退官にあたって演習林の宿舎で記念パーキーの八年就任以来、演習林を(約平田 一九四八年就任以来、演習林を(約

# 名誉教授に聞く平田善文奈良教育大学

長、奈良県都市計画地方審議会会長。 長、奈良県都市計画地方審議会会長。 でいらた・よしふみ 一九二四年、和歌山県生ひらた・よしふみ 一九二四年、和歌山県生ひらた・よしふみ 一九二四年、和歌山県生ひらた・よしふみ 一九二四年、和歌山県生びらた・よしふみ 一九二四年、和歌山県生

大台が原と訪ねたり、そのなかで木と竹の親大台が原と訪ねたり、そのなかで木と竹の親大台が原と訪ねたり、そのなかで木と竹の親大台が原と訪ねたり、そのなかで木と竹の親生、野鳥を街中・奈良公園・春日山原生林・というテーマで、自然を構成している植物、というテーマで、自然を構成している植物、というテーマで、自然を構成している植物、というテーマで、自然を構成している植物、というテーマで、自然を構成している植物、というテーマで、自然を構成している。
 大台が原と訪ねたり、そのなかで木と竹の親大台が原と訪ねたり、そのなかで木と竹の親大台が原と訪ねたり、そのなかで木と竹の親されて、枝打ちもチェーンソーでなく手作業でする。

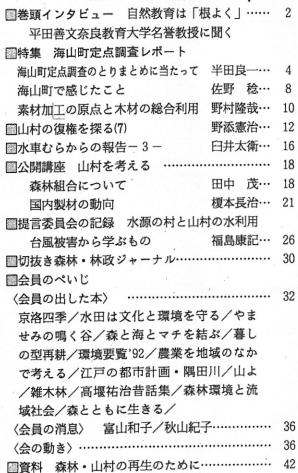
点教育も同じだ。また林業には格別の流行は「根よく育てる」ことが大切でないか、その「相よく育てる」ことが大切でないか、その所へもいって勉強したいというようになった。所へもいって勉強したいというようになった。 は、大台が原の原生林へいく途中はとが分かる。大台が原の原生林へいく途中はとが分かる。大台が原の原生林へいく途中は

### 次 目

## 季刊

No.43

1993年新春号



月 出 東山魁夷

(1965年:65.0cm×92.0cm)

高原に春の訪れは遅い。まず、落葉松が、わ ずかに黄褐色に萌え出すと、やがてすべての木々 の芽吹きが一斉に始まる。

特に山の斜面に立ち並ぶ白樺に柔かい若葉が 出揃うと、漸く高原の遅い春もが散となる。 山の端に月の出を迎えるひとときの静寂感は、 この高原に来る人にとって至福の刻でもある。

山種美術館蔵



表紙の言葉

森前しげを 目次題字 隅谷三喜男

の大切な「自然教育」と考えている。 が消えてゆく現象である。生産活動を通じて ら、大学の講座の中から、農学、林学の名称 なく続けて欲しい。 局等学校での森林・林業教育もさることなが 最近、気がかりになることがある。中学校、

林計画、山村の産業構造を流域でまとめるべ

いた。「樹を師とし森に学ぶ」ということでNHKから求められ色紙に「師樹学森」と書

てきた。奈良教育大学を定年で退官するとき 教育畑にはいり、恩師から〝異色〟といわれ 私は生れながらに山家育ちで、林科を出て

これからも自分を磨いていきたい。

ちがでる。ただ木材には流行がある。それは 姿勢は大変参考になった。今後も絶えること 果についても、ありのまま謙虚に報告される 岳の実験も注意深くみている。あの教室の結 の提言をしたことを高く評価している。ハケ 要望があって、それに応えるためだけれど。 利用する建築やインテリアにたいする人間の 一九八五年四月国民森林会議が「教育森林」 年々 「根よく」育てて初めて木の値打

産業としている山村の適正人口は、労働力と 満たさないと山村には定着しない。 遇・老後の安定と都市並みの文化的な要求を たが、展望はなかなか開けない。若い人は処 体・業界・労組が協力して全国に先駆けてやっ 目安を公務員並みにするように県森連や自治 作り退職金などへの助成を制度化し、待遇の するのかなど試算し、山村の振興もかねた森 として対策を考えるべきだろう。林業を基幹 してどのくらい必要か、その生活保障はどう は多い。奈良県で、林業労働力対策で基金を 地域の自主性だけにまかせるのでなく、

験学習として「森林教育」をとりいれたい。

ためにも次代の子供に学校教育のなかで、体 本質の説得を続けるべきでなかろうか。その

田 労働力問題など国産材時代への課題 囯 [産材時代がいわれているが

> くない。情報化時代だ。叩かれても、いわれそれにしても林業関係のPRはあまりうま うまく役立ててほしい。 きだろう。国土緑化推進機構の基金ももっ ても、なりふりかまわず根よく森林・林業の

めた座談会で調査をしめくくることにします。訪れました。以下二号にわたっての調査団のレポートをお届けし、最後に現地をふく三重県海山町での定点調査が始まって六年。このまとめのため六名の調査団が現地を

# 海山町定点調査のとりまとめに当たって

半田良

# 、海山町定点調査の経緯

町調査班メンバーは、佐野稔・野村隆哉・北尾 言に役立てることであった。そこで調査の対象 め論議を触発するとともに、分析結果を政策提 調査を開始した趣旨は、過疎化・高齢化が進み ら、早くも満六年になる。国民森林会議が定点 少とも町政の指針として建策する、という計画 間としてその前半を資料収集に充て、後半に調 ときの話し合いにより、一応の調査期間を五年 調査の受け入れを町役場や森林組合に依頼した 邦伸の三会員と半田の四名であった。そして、 日本では三重県海山町である。発足当時の海山 に選ばれたのが、東日本では群馬県上野村、西 した取材を通じて会員各位に紹介し、関心を高 つつある山村の変貌と問題点とを、現場に密着 査班の分析検討結果を町へフィードバックし多 九八六年に海山町の定点調査が始まってか

る とわできないまま時日が経ってしまったのであ 情が重なったので、誰もが頻繁に通を訪れるこ 要する交通不便な地にあるうえ、このような事 だでさえ海山町は京都・大阪から最低五時間を 終始快く協力して下さったので、受け入れ態勢 倒れられたことだった。もっとも野中氏に代わっ だった野中茂樹会員が、調査開嫁の寸前に病に 現地在住会員で調査をリードしていただく予定 ずしも順調には進まなかった。最初の躓きは 住んでいたが、野村を除く全員が、退職・転仟 発足当時メンバー四人はいずれも京都・大阪に て著名な篤林家である速水勉氏と子息の亨氏が によって勤めが遠隔地へ変わってしまった。た に、より大きな躓きの原因があった。すなわち、 に殆ど問題は生じなかった。むしろ調査班の側 けれども、当初の意気込みに反して調査は必

もっともこの間、八九年九月には国民森林会

で、本年(九二年)春の幹事会でその事を申し任を果す所以であろうと考えるに至った。そこしては、調査の進捗状況には不満が残るものの、しては、調査の進捗状況には不満が残るものの、とした五年が早くも過ぎてしまった。調査班ととした五年が早くも過ぎてしまった。調査班と

の場を借りて厚く御礼を申し述べたい。出て、従来のメンバーに加えて新たに杉本一・内山節両幹事に応援をお願いすることとした。下午間、終始お世話になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になったが、その後は概して好天に恵まれ、町になるという事故に遭遇し、図らずも陸の孤島になったが、その後は概して好天に恵まれ、町内の各機関や有志の方々の御協力によって、それぞれに多くの知見を得ることができた。この場を借りて厚く御礼を申し述べたい。出て、従来のメンバーに加えて新たに杉本一・出て、従来のメンバーに加えて新たに杉本一・出て、従来のメンバーに加えて新たに杉本一・出て、従来のメンバーに加えて新たに杉本一・

が、本号を皮切りに、調査のとりまとめを順次調査後幹事会で協議した結果、六名の参加者

山町の概況を紹介しておきたい。 ・本稿では、そのための手引きとして、まず海 がでいるはずである。熟読をお願いしたい。 がでいるはずである。熟読をお願いしたい。 本稿では、そのための手引きとして、まず海 山町の概況を紹介しておきたい。

## 、海山町の産業の概要

ア、地理的条件



上村町長と話

速水林業のタワーヤーダによる間伐材の集材

海山町は三重県の南部、尾鷲市の東隣に位置する総面積一・五へクタールの町であり、人口は一万一千三百、世帯数四千を擁する。北にはは一万一千三百、世帯数四千を擁する。地形だから、気候は温暖であるが、反面台風の常襲地帯ら、気候は温暖であるが、反面台風の常襲地帯ら、気候は温暖であるが、反面台風の常襲地帯で、年雨量は四千ミリを超える。交通手段としては、海岸沿いにJR紀勢本線と国道四二号線が走っており、三重県南部の商工業の中心地である松阪市までは八〇キロ弱の商工業の中心地である松阪市までは八〇キロ弱の商工業の中心地である松阪市までは八〇キロ弱の商工業の中心地である松阪市までは八〇キロ弱の商工業の中心地である松阪市までは八〇キロ弱ので、町外への通勤就労の可能性は乏しい。そのうえしばしば豪雨の災害を受けて交通が途絶のうえしばしば豪雨の災害を受けて交通が途絶するから、心理的にも隔絶感・僻地感を免れない。

## 人口

人口の推移を見ると、町が発足した一九五四
 人口の推移を見ると、町が発足した一九五四
 人口の推移を見ると、町が発足した一九五四

れた比較的狭い地域に人口の大部分が集住して他方町のたたずまいを見ると、山と海に囲ま

いる。農村型の集落は少なく、市街地居住者がおいる。農村型の集落は少なく、市街地居住者がの規定的発展とが相俟って、海山町を支えてきるから、二次・三次産業就業者の大部分は町内をから、二次・三次産業就業者の大部分は町内を働くことができる。そのため住民の地域に対する帰属意識もおのずから保たれている。このは定的発展とが相俟って、海山町を支えてきの規定的発展とが相俟って、海山町を支えてきたのである。

を述べよる。

が構造の変革とくに貿易自由化の影響を受け、
がま興廃の危機に追い込まれているのである。
その再建を図ることこそ、町の将来を左右する
その再建を図ることこそ、町の将来を左右する

## ウ、水関業

海山町最大の地場産業は、従来から漁業と水海山町最大の地場産業は、従来から漁業と水産業が町の経済に大きく貢献してきた。原いので、早くから真珠養殖などが行われた。一方引本浦は天然の良港であり、また近海は黒河に乗って回遊する魚族の宝庫である。そこで、八〇年代までは、沖合のカツオー本釣りとその瀬に乗って回遊する魚族の宝庫である。そこであ、水産業が町の経済に大きく貢献してきた。でも、水産業が町の経済に大きく貢献してきた。

にオイルショック以後のコストアップの影響を但しその後魚資源の減少と魚価の低迷、それ

受けて、漁業の対象も多様化し、今では定置網で、近年はハマチ・タイ・カキ等の養殖漁業のた。また衰退を余儀なくされる採取漁業に代った。また衰退を余儀なくされる採取漁業に代った。また衰退を余儀なくされる採取漁業の年間水揚高は約三五億円で、うち採取漁業と養殖漁業のとがほぼ折半している。また従業者数は漁業がお出百人、水産加工業が約百七十人で、両者を併せると町内の就業者五千五百人の一七%に当時は、漁業の対象も多様化し、今では定置網

## 、林業

なった。近年はどこの林業地でも木材の売行不 近年はむしろ海山町が主産地と目されるように ケディングに積極的に取り組んでいる。その結 心であり、従業員の生計の安定や地域材のマー 林道網の整備をはじめ経営の近代化に極めて熱 民有林面積の三分の一強を占める)がいずれも としての評価が高い。それに加えて町の林業を うえで、主に東京周辺へ出荷される。ところで 四%に達する。そしてそこから産出する木材の 体とした人工造林がよく行われ、人工林率は六 果、尾鷲林業の本場は元来は尾鷲市域だったが リードする大規模林業経営者(トップの四氏で 鷲林業地帯の一部を構成しているので、銘柄材 の林業の大きな利点である。しかも伝統ある尾 ヒノキ人工林が豊富に存在することは、海山町 大部分は、地元の一二の製材工場で製品化した ルが民有林である。この民有林ではヒノキを主 いる。そのうち七三%に当たる九千七百へクター 海山町では、林地が町面積の九一%を占めて

> 象徴だ、といってよかろう。 海山町の林業が産業として確立していることの に産業人としてのエトスとパトスがしっかり根 に産業人としてのエトスとパトスがしっかり根 があまり聞かれない。これは、彼らの心のなか があまり聞かれない。これは、彼らの心のなか があまり聞かれない。これは、彼らの心のなか があまり聞かれない。これは、彼らの心のなか があまり聞かれない。これは、彼らの心のなか があまり聞かれない。これは、彼らの心のなか

町の林業の歴史は古いが、人工林が成熟して地場産業として確立したのは、一九六○年代と見られる。しかしその後の第一次産業のなかでの比重を次第に高め、近年は水産業の塁を摩するまでになった。最近の林業の就業者は約百六十人、これに製材業の九十人をプラスすると、大会の林業で二百五十人になる。また年間製品広義の林業で二百五十人になる。また年間製品広義の林業で二百五十人になる。また年間製品が水産業と並んで町の産業経済を支える両輪のが水産業と並んで町の産業経済を支える両輪のが水産業と並んで町の産業経済を支える両輪のが水産業と並んで町の産業経済を支える両輪のが水産業と並んで町の産業経済を支える両輪の比別では、一九六○年代と

## 7、農 業

大町民の生活様式の変化を見越して各種の商品 大町民の生活様式の変化を見越して各種の商品 大。 休耕田には里芋などの栽培が奨励され、また。 休耕田には里芋などの栽培が奨励され、 であるが、七〇年代までは各農家が選択的 に取り組むことにある程度の所得源になってい に取り組むことにある程度の所得源になってい に取り組むことにある程度の所得源になってい であるが、七〇年代に比べると、現在の作付面 でか年一・五儀円に過ぎない。とりわけ米は、 でが年一・五儀円に過ぎない。とりわけ米は、 との、 大の、 大の、 大の、 大のでが、 大のでは、 大のでが、 大のでは、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでは、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでは、 大のでが、 大のでは、 大のでが、 大のでが、 大のでが、 大のでは、 大のでが、 大のでが、 大のでは、 、のでは、 大のでは、 大のが、 大のでは、 大のが、 大のが、 大のが、 大のが、 大のが、 はのが、 はのがが、 はのが、 はのが、 はのがは、 はのが、 はのがは、 はのがは、 はのがは、 はのがは、 はのがは、 はのがは、 はのが、 はのがは、 は

よると音楽さきでしなっては色をいう漫画を担えるだけのものはみつかっていない。作物が導入されているが、まだ町農業の再建を

無視することはできない。

## カ、二次産業

町内の製造業の事業所は、約六十を数える。それぞれの業界全体として、体質改善を図める、但しこれはいずれも、従業員二十人前後める、但しこれはいずれも、従業員二十人前後との小規模な町工場である。ところで水産加工や製品の販路は安定しているものの、原製材は、製品の販路は安定しているものの、原製材は、製品の販路は安定して、体質改善を図る。それぞれの業界全体として、体質改善を図るる。それぞれの業界全体として、体質改善を図るる必要がありそうに思われる。

え、ほかにパートとして雇われる女子労働者も業員百ないし百五十人の規模である。今では町種はゴム製品・電気器具・繊維製品などで、従悪員百ないし百五十人の規模である。今では町種はゴム製品・電気器具・繊維製品などで、従悪員百ないし百五十人の規模である。今では町で、近点に対して、はがいた。しかし近年になっの小規模工場ばかりだった。しかし近年になって、ほかにパートとして雇われる女子労働者も、対策である。

迫を告げるに至った。

## キ、三次産業

町内では市街地のウェイトが高いから、商店・飲食店など第三次産業の事業所や就業者の層は飲食店など第三次産業の事業所や就業者の層はかなり厚い。この分野の経営者は、殆どが自営業者であり、地域の住民を顧客にしている。従って、住民の経済状況や生活感覚の動向、またそれに影響を与える町の施策や各種の運動・イベルに影響を与える町の施策や各種の運動・イベルに影響を与える町の施策や各種の運動・イベルに影響を与える町の施策やという。

面で重要な担い手の役割を果すことだろう。面で重要な担い手の役割を果すことだろう。町まルギーは秘められている法うに思われる。町本ルギーは秘められているように思われる。町本ルギーは秘められているように思われる。町本ルギーは秘められているように思われる。町本ルギーは秘められているように思われる。町本ルギーは秘められているように思われる。町本ルギーは秘められているように思わな発言を志したの自営業者から成る「開進塾」という運動体手の自営業者から成る「開進塾」という運動体手の自営業者から成る「開進塾」という運動体手の役割を果すことだろう。

## 三、森林組合の活動

さて、海山町の林業の振興に当たって極めて

いってよかろう。

極めて特色ある事業を実施している。
の受託市売販売および製材品の受託乾燥という
の受託市売販売および製材品の受託乾燥という
森林組合の組合員は現在二百七十二名で、執行
重要な役割を果しているのが、森林組合である。

三千立方メートル弱)。 まず前者についていえば、町内の人工林は現 を中心に全国一の小丸太の集散地である。森 体組合はこの有利な条件を生かし、かつ木材価 体組合はこの有利な条件を生かし、かつ木材価 体組合はこの有利な条件を生かし、かつ木材価 体和合はこの有利な条件を生かし、かつ木材価 体和合はこの有利な条件を生かし、かつ木材価 は、位下である。森 が記述のでいるわけである。取扱量は、 で、市を経営しつているわけである。取扱量は、 で、市を経営しつているわけである。取扱量は、 を一方本に達する(ほかに一般材の受託販売が のうち材まの取り分を確保することを目指し で、市を経営しつているわけである。取扱量は、 を一方方本に達する(ほかに一般材の受託販売が のうち材まの取り分を確保することを目指し で、市を経営しつているわけである。取扱量は、 を一方方本に達する(ほかに一般材の受託販売が のうち材まの取り分を確保することを目指し で、市を経営しつているわけである。取扱量は、 を一方方本に達する(ほかに一般材の受託販売が

次に製品乾燥施設は、製材工場から委託されて乾燥を行うもので、年間取扱量は三千立方メートルを上回る。事業の目的は、海山の製品の商品性を高め産地間競争を凌いで販路の拡大を狙うことにある。組合員たる林家の目先の利益だけでなく、小規模工場が多い地域の木材産業を全体として振興する立場からこのような施設を運営していることは、特筆に値すると思う。そのほか組合は、常備の作業員八人を擁し、労働力不足に悩む中・小林家から委託されて保育や間伐の活動も積極的に展開している。厳しい環境のもとで地域が一体となって林業活動を推進するうえで、組合の役割は極めて大きいと推進するうえで、組合の役割は極めて大きいと推進するうえで、組合の役割は極めて大きいと推進する方えで、組合の役割は極めて大きいと推進する方えで、組合の役割は極めて大きいと

# 海山町で感じたこと

的に述べて責をふさがせていただきたい。 がら「お返し」するものがない。ただ、その中 から、当地を五度ほど訪ねたことになる。調沓 で、何を感じ、何を考えさせられたかを、感想 マエで始まったのであるが、わたしには残念な のなかから学んだことをお返しするというタテ わたしは海山町の定点調査の一員に加わって

## 天然と人工

り」としての森林が、つくられた画一的な樹種 らぎ」を与えるのである。ところが、「里づく それが新鮮さとリフレッシュ、「うるおいと安 のは、都会に見うけられない自然=天然であり、 ある。都会人が地方のリゾート地にもとめるも をめぐって、いろいろな意見がだされたようで 「天然林」のよそおいにする計画である。これ 町有の人工林の半分を「雑木林」に植えかえて である。町づくりが、思いもかけない「天然と いろな樹種による「天然林」構想となったわけ の「人工林」であっては様にならないと、いろ 権兵衛の里」づくり構想がある。それでは、 「生活環境事業」計画として、吊橋のかかった 町当局が作成したリゾート計画、正確には

> である。 人工」という現代の哲学の問題を投げかけたの

械化された産業となりつつあるといえよう。 林された人工林での画一的な木材を生産する機 思われがちである。しかし、現在の林業は、植 と、機械を中心とする製造業=工業と対照的に 自然条件をもとにした「第一次産業」という

である。 をこえるという難しい課題に直面しているよう ズムを超えることが要請されている。林業は、 る。だが、その近代産業も、いまや、フォーディ ズムの「近代産業」と共通したものをもってい 「近代」以前をもとにしながら、しかも「近代 大量生産 ――大量消費を志向するフォーディ 自然のままの森林ではない。むしろ、少品種・ そこには、都会人が夢みる多様な樹種がある

性」をもつ「なりわい」・生業としてある。 業は、そこに生活する人たちにとっての「日常 ゾートは、「非日常性」であるのに、地方の林 映にほかならない。都会人にとって、地方のリ 方・森林へのリゾートとしての魅力も、その反 自然=天然の大切さが痛感される。都会人の地 機械・文明化がすすめられると、他方では、

> のである。 は、都会がもとめる「うるおいと安らぎ」に安 現代がかかえる問題を投げかけることになった ている。「権兵衛の里」づくりは、否応なしに、 住するわけにいかないという現在の悩みをもっ 機械・文明の導入を避けがたくしている林業

のない、林家の山仕事がもつ「継承」をみる思 毎年ひとつは新しいことをやってきたと。この 年輩になると、こんどは息子が同じように外に さった。私は若いうち大いに外にでて学び歩き、 がある静かな山小屋で、おだやかに語ってくだ の速水勉さんは、周りに樹令二〇〇年の杉の樹 いがした。 語られる言葉に、若者のような現状にたいする でて勉強し、自分はうちで仕事を守り、そして 革新」の息吹と、同時に伝統を排斥すること 海山町の大林家である速水林業の八代目社長

制度が、ここではすでに実施されているのであ 保のために先進的な林業地帯で志向されている られ、福利厚生の整備、雇用の定着・安定化が そこでは、若者が新しい技術を修得し、それを はかられることになる。いま、林業労働力の確 もいかせてくれる。それゆえに、ここで働く人 できるからである。また、勉強のために外部に 林業には珍しく若者の働き手が集まってくる。 たちには、一時的雇用でなく、終身雇用制がと 実際に活かせ、多様な仕事を身につけることが 労働力確保の難しさがいわれるなかで、速水

若者たちをひきつけるのである。かに聞くことができる。これらは、なによりもけがけえのない説話を、社長や息子さんからじ知識や情報、また長い経験のなかでえられたかる。それだけではなく、外から得られた新しい

無視して林業は語られないであろう。
山林経営は何代にもわたって引きつがれる。
長い期間の努力によって始めて成果がでてくる。
大りに仕事のひきつがれることが納得できる気がする。そこには、革新と伝承とのバランスのがする。そこには、革新と伝承とのバランスのがする。そこには、革新と伝承とのがきる。
とれた姿をみることができる。二〇〇年を経たとれた姿をみることができる。二〇〇年を経たとれた姿をみることができる。二〇〇年を経たとれた姿をみることができる。二〇〇年を経たがする。それをといれていてある。

若い働き手は、手鋸により実技を競う4人大会で入賞したことを語ってくれた。その若者は、ふだん、チェンソーを使い手鋸を使っていない。かけて参加して入賞したという。このような大大会直前に、古い先輩から手鋸のコツの特訓をからけて参加して入賞したという。

さしさ」は、機械化の時代にも、なお受けつがの殺し屋」といい、一本一本の木に語りかけ、の殺し屋」といい、一本一本の木に語りかけ、の殺し屋」といい、一本一本の木に語りかけ、なくつらいと語る。つらい労働からとき放つもなくつらいと語る。つらい労働からとき放つもなくつらいと語る。つらい労働からとき放つもなくつらいと語る。つらい労働からとき放つもなくつらいと語る。

ずである。若者も、いつかは「熟年」になる。

して、白ろう病に苦しむ人たちと無縁でないは

かつて働き傷ついた人たちにたいするやさしさ

は、現在の働き手たちにもかえってくる。また、

れていってほしいと願った。

## 強者と「やさしさ」

機械・文明と若者、そして「手造り」・高齢をとは、何か対照的のように思える。ある意味では、「強者」に対する「弱者」といえるかもでは、「強者」に対する「弱者」といえるかもの使い方によっては、人間・自然を破壊するのが、前者には、自然ならびに見れない。すなわち、前者には、自然ならびにしれない。すなわち、前者には、自然ならびにしれない。すなわち、前者には、自然ならびにのがある。というとともに、その面をあらわしている。その周辺に生まれ暮とは、何か対照的のように思える。ある意味者とは、何か対照的のように思える。ある意味者とは、何か対照的のように思える。ある意味者とは、何か対照的のように思える。ある意味者とは、何か対照的のように思える。ある意味者とは、何か対照的のように思える。ある意味者とは、何か対照的のように思える。

若者も、同じチェンソーを使って働く仲間と使用は、多くの働く人を白ろう病においやった。 をして、いまだ癒えぬ症状に苦しむ人もいる。 をして、いまだ癒えぬ症状に苦しむ人もいる。 をでは、機械の「影」がもつ怖れを知らず、多た輩が心血をそそいで得たルールを守り、自分た輩が心血をそそいで得たルールを守り、自分たむが心血をそれで得たルールを守り、自分を重に「やさしい」である。

ほりできることで、「国際と与なって、し、ひきつける大きな絆となるのである。 い血のかよった対応は、山に働く人たちを確保それらの人たちにたいする経営者や行政の暖か

海山町の役場の玄関に、「国際化時代の新したい生き方」として「人権の共存」という標語がい生き方」として「人権の人たちが生きやすい「やさしさ」をもった人たちが、伝統と「やさしさ」とと神をもった人たちが、「の世に生れて、自分の中をした。弱い立場の人たちが生きやすい「やさしさ」をもった人たちが、伝統と「やさしさ」とと神をもった人たちが、「のでは、本新と創造的精神をもった人たちが、「人権の共存」という標語がい生き方」として「人権のいた。「人権の根源である」といっ命や健康を奪われないで自然死するまで生きる自由、これがあらゆる人権の根源である」といっている。

学校を卒業すると同時に海山町を離れた若者たちが、都会生活に疲れくたびれたとき、それたちが、都会生活に疲れくたびれたとき、それを癒すのは、郷里がもつ「やさしさ」であり、者を郷里にひきつけ、再びつれ戻すのである。それは、樹木の成育を長く見守ってき山人の眼である。海山町の町づくりも、そんな眼をもったものであってほしい。

いかと思った。

・は二度でかけている。海山町の魅力も、たんなる「点」としてでなく、「点」と結びつい線には二度でかけている。海山町の魅力も、た家族と一緒に、榊原温泉、伊勢、鳥羽を結ぶ路家族と一緒に、神原温泉、伊勢、鳥羽を結ぶ路をしていない。だが、考えてみると、この数年間に、

# の総合的利用素材加工の原点と木材

じめに

低下は著しく、それを補うために発達してきた 済では、一次産業、特に農林業の相対的価値の あるから勝敗は明白である。このような市場経 ない。生産効率や付加価値が何千倍も違う製品 値のものによって主導されているからに他なら 生産システムの中で、生産効率の良い高付加価 学技術に裏付けられた大量生産大量消費という では農林業は成り立たない。 ることになり、このような市場経済の枠組の中 四次産業の肥大化は一次産業をますます圧迫す 広告宣伝などの情報産業に代表される三次産業 が同じ市場経済という土俵の上で勝負するので て良いのではなかろうか。これは世界経済が科 た。この間、我が国の林業を取り巻く情勢は何 定点観測が発足して一〇年以上の歳月が経過し 一つ改善されないまま今日に至っていると言っ 国民森林会議の活動の一環として、林業地の

いた折、目の当たりに見たものは、木材工業が最近、マレイシアの木材利用の現状調査に赴

ているという現状である。原料の木材価格が○に近い状態で初めて成り立っ

とを如実に示しているといえるだろう。 材と立木単価が変わらないという現状がこのこ ければならなくなる。ヒノキの並材がスギの並 的な付加価値が下落するという矛盾と直面しな が、すべてのものが規格化の進む中で、ニーズ 規格化すればするほど木材の付加価値は下がる が考えられる。木材を工業製品と同列にして、 重が高ければ高いほどただに等しいということ 較すれば、それらが工業製品の原料としての比 される原木の価格は流通経費や製品コストと比 上国のみならず先進国も含め、天然林から生産 材は経済としては成り立つはずがない。発展途 れてくるのであるから、スギやカラマツの間伐 られないのであるが、このような商品が輸入さ 立っているのである。我が国ではとうてい考え の七~八%であるにも関わらず企業として成り に対応していこうとすればするほど木材の相対 ゴムの木による集成材の製品歩留まりが原木

ればならない時代が来るであろうことは、地球いずれ近い将来、経済の枠組を作り替えなけ

ク材の需要などに現われてきたと感じられる。
 資源の浪費が環境問題として人類の生存を上の資源の浪費が環境問題として人類の生存を上の資源の浪費が環境問題として人類の生存を上の資源の浪費が環境問題として人類の生存を上の資源の浪費が環境問題として人類の生存を上の資源の浪費が環境問題として人類の生存を上の資源の浪費が環境問題として人類の生存を

## 素材加工の原点

柱材に特化した海山町を中心とした尾鷲林業は と、土地柄にあったヒノキの生産による良質の るようになるはずである。このような時代背景 でなく、それを構成する素材そのものに奥行と くると考えられる。住空間を構成するものにつ れつつある中で、木材に対する見方も変わって なライフスタイルに少しずつ軌道修正が行なわ よる大径木、枝打ちによる無節の柱材生産を特 の招来と共に、古くから計画的な人工林の育成 存在感があり、耐用年度のあるものが求められ 経済が終息し、人々の意識が日本人本来の堅実 木材の素材加工の原点にあると考えられる。素 いてもただ単に見掛けだけ機能的合理的なもの し、高付加価値を付けることである。長伐期に 材加工の原点とは、材そのものをそのまま生か バブル経済により頂点に達した狂乱的な消費

観点で見れば、海山町を中心とする尾鷲林業は うと予測されるが、素材生産を起点とする産業 今後とも安定した経営が行なわれていくであろ 材の付加価値を高めることになる。このような てゆき製材業の中で焼却処分しなければならな しかし、前述したような理由で一軒一軒減少し まで箱屋によって引き取られ、利用されてきた。 約二三一〇〇立方にもなる。これらの端材はこれ ば、製材時に出来る元返しは年間八〇〇〇石、 えられてしまうことになる。海山町を例にとれ 関部分は他の産業による代替品によって置き換 業連関の輪はどんどん小さくなり、欠落した連 者の消滅による廃業などによって木材関連の産 高齢化、製材加工や木工技術者の高齢化、後継 あることは周知の事実であろう。林業労働者の 連関の中で見れば安穏とはしておれない現状が に対する根強い需要は必然的にこれら良質の木 いような現実となってきている。 良質の木材の絶対量の減少と伝来の在来工法

ばならないことは、木材の産業連関は昔から利疲弊していくのである。もう一つ注意しなけれの産業連関の輪は小さくなり、関連産業全体がこのように、知らず知らずのうちに木材関連

来ず、山林はますます疲弊することになろう。害の相反する業種で構成されていることである。とかし、業界の合理化と再編を行なわなけるかに長い歴史を持つ業界を合理化し、再編するのは困難なことであり強大な力が必要であろるのに長い歴史を持つ業界を合理化し、再編するのは困難なことであり強大な力が必要であろう。しかし、業界の合理化と再編を行なわなければ川上への資本の蓄積は今後も望むことが出れば川上への資本の蓄積は今後も望むことである。害の相反する業種で構成されていることである。

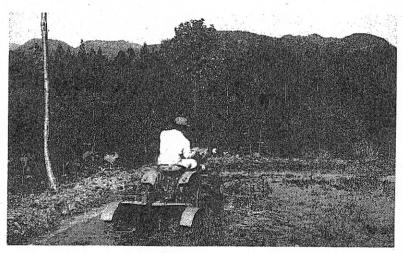
## 木材の総合的利用

は明白である。
は明白である。
は明白である。
は明白である。
は明白である。
は明白である。
は明白である。
は明白である。
は明白である。

異質の産業構造に属するものなのである。
異質の産業構造に属するものなのである。
なコストの切り詰めはパーティクルボードやフローリング材の生産コストを見ても素材生産フローリング材の生産コストを切り詰めたパーティクルボードやフローリング材の生産コストを切り詰めたパーティクルボードやフローリング材の生産コストを切り詰めたパーティクルボードやフローリング材の生産コストを切り詰めはパーティクルボードやフローリング材の生産コストを見ても素材生産フローリング材の生産コストの切り詰めはパーティクルボードやフローリングが表します。

林産業の地位の低下していくなかで森林資源を ある林学や林産学は、市場経済における林業、 転換をしつつあり、林業林産業の学問的基盤と 材を原料とする工業的方向に研究テーマを方向 を理学的立場から研究しようという方向に方向 テーマから逃避し、前者は森林生態や自然環境 ことをしているため、現実の問題解決をますま 学問の社会的基盤を林業、林産業に置くという の本質とは関係のないところに身を置きながら、 落するため、木を見て森を見ずの類となり問題 先端化を競うことで総合的な視点がますます欠 厄介なことは個人個人のテーマが細分化され、 は緑のないところに向かいつつある。 転換し、後者はハイテク、バイテクによって木 いかに有効に利用していくかという本来の研究 す困難にしていると言える。 **人類の生存のために環境との調和を図りながら** 他方林業や木材加工業に関連した学問領域で さらに、

木材という天然素材は、それ自身非常に幅の広い用途を持つ天然資源であるため、これを総合した価値観で定義することが困難である。そのため、これを用いるそれぞれの領域、分野で都合のよいように取り扱われてきた。しかし、今日のような森林資源の大量消費が生物の存在を脅かすまでに劣悪な状態に地球環境を変えてを脅かすまでに劣悪な状態に地球環境を変えてという大きな枠組を早急に作り上げなければならないのではないだろうか。この枠組を作るたらないのではないだろうか。この枠組を作るたらないのではないだろうか。この枠組を作るための方法論はいろいろあるであろうが、木を見めの方法論はいろいろあるであろうが、木を見めの方法論はいろいろあるであろうが、木を見めの方法論はいろいろあるであろうが、木を見めの方法論はいるいろのであるであるである。





## 比で四一〇〇人(三・八%)も減少していた。 農業就業人口は一〇万三九七〇人で、前年同期 (概要)を発表した。それによると、秋田県の 九九二年一月一日現在の農業動態調査結果 東北農政局秋田統計情報事務所は九月八日、

か。

消しているという現状を、知っているのだろう

規模拡大を最大のテーマにしているが、こうし

て農村の最大の働き手である層がどんどん姿を



# 権を探る

野

添

憲

治

いていただきたい。 ていくよりないと思っている。また、溜息を聴 吐き出して現実の重さを知り、そこから出発し るとどうしても溜息がでてしまうのだが、いま が暗いだけではなく、その先も暗い。それを見 うなるの、と言われるとそのとおりだが、いま 告してくれる人もいる。いまさら落ち込んでど のところはその溜息を封じ込めるよりも大きく たら山村や過疎地では生きていけないよ、新し なかには、そんなことを一つ一つを気にしてい い展望を見つけることもできなくなるよ、と忠 きな溜息がでるような調査結果がでた。識者の 山村や過疎地に住んでいる人には、またも大 わらず「市場原理・競争条件の導入」をうたい

視点と方向」を発表した。このなかでは相も変 す「新しい食料・農業・農村政策展開の基本的 られているのだ。農林水産省がことしの六月一 〇日に、二〇〇〇年までの農政の基本方針を示 の層との減少によって、農村から活力が奪い取 変えているのである。一六―二九歳の層と、こ 望を見つけられず、あるいは農業経営のなかで となるこの層の減少が大きい。農村の前途に希 減の四万八四八〇人で、もっとも農村の担い手 が少なくなっているかを浮き彫りにしている。 七%)減の一六九〇人で、いかに農村で若い人 別では、一六―二九歳の層が八二〇人(三二・ した農業従事者の人口(農業就業人口)の年齢 大きな赤字を背負い込み、他産業に次々と職を 詳しく調査結果をみると、主として農業に従事 三〇―五九歳の層が三四九〇人(六・七%)

ているかを、なによりも確実に示してくれていている。増加した六○歳以上のうち、六五はじめて半数を超えた。農村の高齢化が急速にはじめて半数を超えた。農村の高齢化が急速にはじめて半数を超えた。農村の高齢化が急速にはじめて半数を超えた。農村の高齢化が急速にいるかで、五とを、改めて知らせてくれたと、のように、五九歳以下は大幅に減少しているのように、五九歳以下は大幅に減少しているのように、五九歳以下は大幅に減少してい

同時に発表された調査結果によると、販売農家(経営規模三〇アール以上、または農産物販家(経営規模三〇アール以上、または農産物販家(経営規模三〇アール以上、または農産物販家(経営規模三〇アール以上、または農産物販売額五〇万円以上)は八万二三九〇戸で、前年同期比で一一一〇戸(一・三%)の減少となっている。また、専兼業別で見ると、専業は六五つ戸(一〇・八%)増の六六五〇戸である。これが農業就業人口の高齢化の大きな因子の一これっているし、また、農業そのものを活気のない産業にしている。

ろで、高度経済成長以降は小規模な縫製工場がの農村を見てみように、米代川が流れている。その中流地帯はかつては天然秋田杉の産地としての中流地帯はかつては天然秋田杉の産地としての中流地帯はかつては天然秋田杉の産地としての中流地帯はかつては天然秋田杉の産地としての中流地帯はかっては天然秋田杉の産地としての中流地帯はかっては天然秋田杉の産地としての中流地帯はかっては天然秋田杉の産地としての中流地帯はかっては天然秋田杉の産地としている。その農村を見てみよう。わたしの住む秋田県の北の農村を見ている。

いる。 店を営むBさん(五二)は、次のように語って 誘致されている。そこで木材や建材などの小売

でつづいた。 に。台風関連の仕事は年を越えて、二月ごろまた。台風関連の仕事は年を越えて、売り上げは伸び修や増改築やらの仕事がでて、売り上げは伸び昨年の秋は台風一九号のあと、被害家屋の補

ことしも二月以降、それまでの売り上げを維持してきたが、一〇月に入ってから建築物件が持してきたが、一〇月に入ってから建築物件がは例外だと分かっているが、客観的な状況伸びは例外だと分かっているが、客観的な状況伸びは例外だと分かっているが、客観的な状況からすると、その例外をこれからも期待するのは、かなり難しくなってきている。台風以外のは、かなり難しくなってきている。例年、町村関係でともなう住宅の移転建築工事と、森吉町のダム建設にともなう住宅の移転建築工事と、森吉町のダム建設にともなう住宅の移転建築工事と、森吉町のダム建設にともなう住宅の移転建築工事と、森吉町のダム建設にともなう住宅の移転建築工事と、森吉町のダム建設にともなう住宅の移転建築工事と、森吉町のダム建設にともなう住宅の移転建築工事と、森吉町のダム建設にともなう住宅の移転建築工事と、表書的は別外の仕事が結構あるのだが、ことしは少ない。町村営住宅が建たなくなった。人が減っているので、あまり建てる必要もなくなったということもある。

ているうえに減反がつづいているのと、農家はまったくなくなった。コメの価格が押さえられざき、わたしたち小売店も秋需要に向けて血ががき、わたしたち小売店も秋需要に向けて血がでるのだが、最近の農業にはさっぱり期待ができない。かつては、収穫期になると農家も活気を農家に元気があれば、地場の建築にも活気が

屋さえ建てる気がなくなっている。農機具の借金に追われ、住宅どころか、作業小

農業後継者がおらず、農業就労者の高齢化が農業後継者がおらず、農業就労者の高齢化がという。当事者にとっては大変ないというに近られている。一度返済して、必要なら合併後に借り直せばいいという指導のようだが、一千万円以上の債務を抱えている人ようだが、一千万円以上の債務を抱えている人ようだが、一千万円以上の債務を抱えている人ようだが、一千万円以上の債務を抱えている人ようだが、一千万円以上の債務を抱えている人とで、とても家の増改築とか新築などに気持ちが向いていく状態になっていない。

あたえている。 としさは、このような形で地域社会にも影響を 農業の高齢化、担い手不足などによる活気の

## 高齢者自殺の増加

八月には秋田県が「平成三年の県人口動態調へ月には秋田県が「平成三年の県人口動態調査と並ぶ国の指定統計でをするもので、国勢調査と並ぶ国の指定統計ででするもので、国勢調査と並ぶ国の指定統計である。

殺者が多いところなのである。昨年一年間の県数である。なぜか秋田県は、全国でも有数の自発表されるといちばん先に見るのが、自殺者

暗澹とした思いになる。

暗澹とした思いになる。

明の自殺による死亡者は、三一九人となっているが、人口の万人当たり何人自殺したかを示す自殺率であると二六・一と、全国平均一六・一を大幅による所による死亡者は、三一九人となってい内の自殺による死亡者は、三一九人となってい内の自殺による死亡者は、三一九人となってい

過去一〇年間の秋田県の自殺者を、全国での一、二月の寒い期間に少ないのはどうしてなのた。また、四、五、六月に多く、逆に一二、一九八四年と一九八六年が二位のほかは、すべて一位なのである。また、秋田県の自殺者を年齢はでみると、五〇代をトップに、六〇代、七人でに集中している。ここ数年間をみると六五歳以上の自殺者は毎年一三〇人前後で推移しており、四割近くを占めている。なお、高齢者のおり、四割近くを占めている。なお、高齢者のおり、四割近くを占めている。なお、高齢者のおり、四割近くを占めている。なお、高齢者のおり、四割近くを占めている。なお、高齢者の不利に集中している。ここの五年間は、連続である。

では、 では、 では、 では、 である。 では、、 である。 では、、 できないとしても、 に共通している点は、 高齢化率が高いので自殺者が多いと即断することはできないとしても、 の県と秋田 媛、 高知、栃木などがある。 これらの県と秋田 媛、 高知、 が多いと即断することはできないとしても、 高齢化と自殺率とは、 の場と秋田 ののはなかる。 できないとしても、 のにという のにという のにという のにという のにという のにという のにという のにという のにという のにといる。 のにという のにといる。 のにといる。 のにという のにといる。 のにという のにといる。 のにと、 のにと、

> ないか」と考えられなくもない。 ることはないので、自殺する人も少ないのでは 族も家にいる場合が多いから、孤独感におちい 重荷になっているという感じにならないし、家 り合うのではないか。その点農閉期は、 と、一人家に残されているという寂しさが重な を持ち、忙しい家族の重荷になるという気兼ね 期に当たる。ここで推定すると、「自分で病気 に自殺の多い時期が農繁期、少ない時期が農閉 ろうか。自殺を数字や、単純な動機づけで説明 二月にかけては少ないという点である。一般的 し、結論づけることはひかえなければいけない。 ているところに、病苦とか借金、事業不振といっ る一つだけの原因で自殺するということはなく う順になっている。ただ、ここであげられてい 目殺が四月から六月にかけて多く、一二月から たものが引きがねの役をしているのではないだ 振(一〇%)、40厭世、孤独感(一〇%)とい いくつもの要因が重なって心身ともに弱りきっ 精神・神経科疾患 (一五%)、⑶借金、事業不 ただ、高齢化の次にいえることは、高齢者の 自殺の原因をみると、(1)病苦 (四〇%)、(2) あまり

にいないとなれば、生きていく喜びも楽しみも込む。話し相手もいなく、可愛い孫たちも近くたり、子どもたちは独立して家におらず、一人たり、子どもたちは独立して家におらず、一人たり、子どもたちは独立して家におらず、一人をり、子どもたちは独立して家におらず、一人をり、子どもたちは独立して家におらず、一人をり、子どもたり、老人クラブなどに行ってまた、高齢になっても体が丈夫なうちは、ゲーまた、高齢になっても体が丈夫なうちは、ゲー

うか。 自殺という道に走るようになるのではないだろ なくなり、生きる無意味さが深まってくると、

心配は事実になる可能性が強いといえる。で高齢者の自殺が増加する心配がある。現実にに高齢者の自殺が増加する心配がある。現実にに高齢者の自殺が増加する心配がある。現実になる疾化が進行してくる中山間地帯では、さら核家族化が進行してくる中山間地帯では、さらな家族化が進行してくる中山間地帯では、さらな家族化が進行してくる中山間地帯では、さらな家族化が進行してくる中山間地帯では、さらな家族化が進行している。

込んできている切実な課題である。 うに、わたしの住む秋田県では高齢化農業が着 高齢者の自殺増加という事実がどんどん進んで にあるのではなく、毎日の暮らしのなかに入り 実に増えている。「いま」の問題として目の前 いるのである。しかも、前の項でも見てきたよ 秋田県ではまだ具体的に手がつけられない間に、 と指摘してきた。だが、それらがわたしの住む 三分の一はベタ記事にも扱われないまま消えて 間の自殺者のほぼ三分の二が記事になるものの、 は違う高齢者福祉対策の具体化が早急に必要だ 加速していく中山間地帯には、平坦地の農村と わたしは、過疎化と高齢化が車の両輪となって いる。長年、そうして自殺の問題を考えてきた に載る自殺者の記事をスクラップしている。年 わたしは一八年前から、県紙や中央紙の県版

と思われる「心」の部分には、まったくといっちりと把握していない。また、もっとも大切だ化対策を見ると、このような農山村の変化をきっ自治体でいくらか手をつけはじめている高齢

問題となっている。 ていいほど目が向けられていないため、最悪の

## 土が死んできている

で「平年並み」となった。 東北農政局秋田 で、この原因を、「六月下旬から七月上旬に した。この原因を、「六月下旬から七月上旬に した。この原因を、「六月下旬から七月上旬に した。この原因を、「六月下旬から七月上旬に した。この原因を、「六月下旬から七月上旬に した。この原因を、「六月下旬から七月上旬に した。この原因を、「六月下旬から七月上旬に した。この原因を、「六月下旬から七月上旬に と見込まれることから、作柄は『平年並み』と と見込まれることから、作柄は『平年並み』と と見込まれることから、作柄は『平年並み』と と見込まれることから、作柄は『平年並み』と と見込まれることから、作柄は『平年並み』と と見込まれることから、作柄は『平年並み』と と見込まれることから、作柄は『平年並み』と いっている。

作況が平年並みに下落したあと、専業でやったのである。

とひどくなるな」と、友人はコンバインで稲をらな。その仕返しをされているんだべよ。もっ「農家は長いあいだ、手抜きをやってきたか

るから見にこないかと電話がきた。田の基盤整備事業が完成し、一般に公開していその友人から一一月上旬、町の今年度分の水刈りながら言った。

(でははないるよ。早く来ないと、なくなるけで、1四日はね、減反に植えたソバを、地どりで

ヵ所だけ、田んぼを掘ったままの状態にしてあっ備の終わった水田を案内してくれた。そして一四日の午前に行くと、友人はさっそく基盤整くなるような、それは甘い誘いであった。と、ソバの好きなわたしがどうしても行きた

層なんだよ。俺も実際に掘るまでは、俺の水田橋、大型機械で耕やしても、こんなものなんだ。一大型機械で耕やしてとこで、いまは耕作されたが、その下から母岩まであるのが、グライはいで残っているんだ。その下にある層が、三センチよりないだろう。その下にある層が、三とり機械で耕やしても、こんなものなんだ。一大型機械で耕やしても、こんなものが浅いだろう。

たな」の下にこれほどグライ層があるとは思わなかっ

そうか、友人はこれを見せたいので、わたしま何年も残っている。顔を近づけると、ドブのなかの水分が多いので酸素が不足し、微生物のなかの水分が多いので酸素が不足し、微生物のなかの水分が多いので酸素が不足し、微生物のなかの水分が多いので、神大に由来する言葉で、土壌といがした。まさに死んだ土である。

田は、どうにもならんですよ」年からは作がいいでしょうね。でも、ほかの水「基盤整備で土をひっくり返えしたから、来

いる。その水田を規模拡大しても、いったい採にわたる手抜き農業のなかで、土が死んできてライ層を壊わす機械もでているそうだが、長年と言う友人の顔は暗い。

4

算の取れる農業が可能になるだろうか。

## 森とともに生きる

国民森林会議編

家の光協会 一五〇〇円

身近な森林の実態とこれからを鋭く見すえる ----。 国民森林会議が結成一〇周年の記念として世に問う啓蒙書。地球規模の森林から



# 水車むらからの報告 ③

費税並みの増税案ですら業界はやたら反対してとを想起するまでもなく、一リットル五円の消が加の石油ショックの頃ガス、電力、ガソリン、前の石油ショックの頃ガス、電力、ガソリン、石油の価格が二倍三倍と値上がりしないとだ

生産性の向上=賃金上昇=生活の安定という生産性の向上=賃金上昇=生活の安定というにいる元凶であり、ひいては日の生態系を痛めている元凶であり、ひいては日のの本が急成長したというアンバランスが、地球の生態系を痛めている。

式程度のものだという風に理解されたい。だが、現在の私の認識として先ずあらっぽい図と綴っても暴論であることは解ってはいるの

おれの夢のなかで何度も出遇っている

〈気障だな、どっちでもいいさ〉〈ば、ぼくは信ずるに値する人間ですか〉〈が、ぼくは信ずるに値する人間ですか〉病むように巣食っている男のようだ何の兵士だとか工作者だとか

にそれをつなげて物語ってみた。
、密書を届ける仕事をさせてもらうという内容するのか自問の日々だった、森の中から海の方するがが出るのが自問の日々だった。

≪密使≫

きていた。

り角を駄農の商人みたいな道を選んで細々と生

やがて私は詩も農民も失格者になりつつ、曲

おれだけの師に遇いたいともどかしい日々がいやだった日暮れわらじをつけた日暮れわらじをつけた日暮れわらじをつけたないがにことはないがなぜかいらだつ六月の

も、もどかしい日常で夢見る想像力を詩に綴るた、草服の男にしても、廃村の闇夜の師にしてわが師は峠を越えた寒村にいると幻視している際村の闇夜≫

て、おれはとほうにくれていく〉のだが。た、出遇った〈師ののっぺらぼおの貌をみつめた、もちろん八十年安保後の解体のうねりはあっしか術はなかった。私の世界には村がすべてだっ

日

井

太

衛

理解してきていた。

嫌悪が体質になっていた。で常識的で保身的だった、そして劣等感や自己たかった。しかし私の正体はあまりにまっとうた。だから私は思想として危険なものを所有した。だから私は思想として危険なものを所有し

私の内では有機農業や反原発は危険思想にま

想が発芽する種など無いと思っていた。という思想はきわめて貴重である。さらに言葉いる。歪んでいる、その歪みに有機農業の実践いがとれるという構えが処生術のようになっていがとれるという構えが処生術のようになってような少数派に身に置くことで平衡が、つりあで成長しない、と何故か解っていたけど、そので成長しない、と何故か解っていたけど、その

水車をつくろうという話がもとで室田武(注1)を代表とするグループ「水車むら会議」は生れたのだが、それが十年ちょっと前、水車小屋とたのだが、それが十年ちょっと前、水車小屋とたった。つり橋にワイヤーいっぱりその頃生れた東京大学の「エコロジー研究会」の学生が合宿にきた。つり橋にワイヤーいっぱりの帝地を宿にきた。つり橋にワイヤーいっぱいの布地を宿にきた。つり橋にワイヤーいっぱりた險思想だの風にはためいていた。やっぱり危險思想だの人方。

私の提言する肴とは例えば前号での青山宏(注2)氏の肉声を借りるならば「急斜面のため(注2)氏の肉声を借りるならば「急斜面のための辧当は麦七分米三分であった。低賃金粗食、のが、山村生活の日常であった。 低賃金粗食、たらいでそっくりそのま、である。「先端技術くらいでそっくりそのま、である。「先端技術ならいでそっくりそのま、である。「先端技術ならいでそっくりそのま、である。「先端技術ならいでそっくりそのま、である。「先端技術ならいでそっくりそのま、である。「先端技術ならいでそっくりそのま、である。「先端技術ならいでそっくりをのま、である。」

の被爆をテーマにする。ぼくもテレビで観たりの被爆をテーマにする。ぼくもテレビで観たりでいと逃げる。すると、何故かつての山村の貧ないと逃げる。するとサクシュウ、臼井さんマルクスだ古い古いとひやかすので、何故マルクスだ古い古いとひやかすので、何故マルクスだ古い古いとひやかすので、何故マルクスだ古い古いとひやかすので、何故マルクスに古い古いとひぞかの真任ですかと問われる。近隣しさが臼井さんの責任ですかと問われる。近隣しさが臼井さんの責任ですかと問われる。近隣しさが臼井さんの責任ですか。同接民主主義力は独裁者と資本家であったり、間接民主主義力は独裁者と資本家であったり、間接民主主義の違いはあっても」。それじゃと直接民主主義の違いはあっても」。それじゃと直接民主主義の違いはあっても」。それじゃと直接民主主義の違いはあっても」。それじゃと連ば、対しているのでは、が、対している。

を、そのような思いがある。 を、そのような思いがある。 を、そのような思いがある。 を、そのような思いがある。 を、たぶん「水車むら会が車は私の実在という虚を充足させるだけのシルボルに近い存在である、たぶん「水車むら会が車は私の実在という虚を充足させるだけのシルボルに近い存在である、たぶん「水車むら会が上げる。 を、そのような思いがある。

ともかくいろり火を囲んで酒ばっかし飲んだ、ともかくいろり火を囲んで酒ばっかし飲んだ、ないた一個の歯車として生きたいという死生感だレた一個の歯車として生きたいという死生感だよし、小さいしかもいくぶんかみ合いの悪いズよし、小さいしかもいくぶんかみ合いの悪いズはし、小さいしかもいくぶんかみ合いの悪いズはし、小さいしかもいくぶんかみ合いの悪いズと勝手に理解すると解るのだが、私は小さい、小で解るようで解らないのだが、私は小さい、小で経済学としてのスモールイズビューティフル、

水車むらの建設期、「河野お前は河野組の頭になって汚水の土壌浄化域を完成させろ」と設相手に完成させてしまった。夕暮れからはいろり相手に完成させてしまった。夕暮れからはいろりで薪で火を育てることに興味をもって名人の域に達した。昨今は新茶の頃になると田子の浦で借りている茶畑から新芽を刈り取ってきて、水車むらの紅葉小屋で仲間と自園自製の紅茶づくり。水車むらの紅葉小屋で仲間と自園自製の紅茶づくり。水車むらの紅葉小屋で仲間と自園自製の紅茶づくり。水車むらの紅葉小屋で仲間と自園自製の紅茶づくり。水車がある大きで、いるりの私はおじさんはと語りかけるような年齢になった。

- (1) 一橋大学、著者に「水土の経済学」など
- ③ 協同組合研究所研究員、大学院在籍② 前静岡県竜山村森林組合長

# 公開講座 山村を考える ④

# 森林組合について

岩手大学教授

田中

茂

九人参加者(敬称略) 大内・内山・山田 会員外場所 学士会分館

九月一二日

## 一、全体像

協と比較しながら見ていきたい。という点である。これらの点について、主に農るかという点と、どのような事業をしているか律制度的には、どのような人々で構成されているがは同組合としての性格を規定する要素は、法

## 〈組合員資格〉

という。 とはできない。 に組合員は森林的に 指定することはできない。 正組合員は森林所有者であり、 農民・漁民に対応する「林民」 林所有者であり、 農民・漁民に対応する「林民」 が存在しない。 この点が、 林業協同組合とは が存在しない。 この点が、 本業協同組合と のず森林組合と のず森林組合と のず森林組合と のず森林組合と のず森林組合と のず森林組合 の場合には 直接生産者を は のずる、 は のずる、 は のずる、 は のずる、 は のずる、 が のずる、 のずる。 のずる、 のずる。 のずる

いうのが私の考えだ。森林組合は、農協、漁協、にも関わらず、森林組合は協同組合であると

にも認知されている。 は、世界のであることは国内はもちろん国際的が端的に示すように、森林組合が林業を代表す法に基づく協同組合は加盟してない。このことは下書が、他の協同組合は加盟してない。このことはなど、

## 当地へ

あるが、森林組合はこの両方を行う点に特徴があるが、森林組合はこの両方を行う点に特徴があるが、森林組合はこの両方を行う点に特徴がある。

農協を例にとると、播種から収穫に至る生産 が中心であると言える。農協を例にとると、播種から収穫に至る生産 が中心であると言える。

がなくなったことなどから、近年は造林や育林投下が直ちに収入に結び付かない点や、農閑期は対応できないので組合が行う。また、労働力ところが森林組合の場合には、植林は個々のところが森林組合の場合には、植林は個々の

じさせたためと言えよう。化は貨幣経済の浸透が日々現金を得る必要を生かようになってきている。このような構造の変に関しても組合に作業班員として雇用されて行

## 〈組織

三組織は事業に違いがある。 
三組織は事業に違いがある。 
三組織は事業に違いがある。 
三組織は事業に違いがある。 
三組織は事業に違いがある。 
三組織は事業に違いがある。 
三組織は事業に違いがある。 
三組織は事業に違いがある。

無森林組合の中核事業は林産・造林である。 □以上の丸太市場があるが、国産材丸太の市場 ○以上の丸太市場があるが、国産材丸太の市場 価格を左右するだけの力は地域でもってきている。また、農協においては、県連の段階で信用、 共済の各連合会、販売と購買のための経済連合 会というように各専門連が存在するが、森林組 合の規模はそれ程大きくはないので、これら全 での機能を県森連が果たしている。しかし県森 連の殆どは県庁所在地に独自のビルを持ち、平 均して二○人の職員を抱えている。これだけの 均して二○人の職員を抱えている。これだけの 均して二○人の職員を抱えている。これだけの 均して二○人の職員を抱えている。これだけの 均して二○人の職員を抱えている。これだけの

他、製材品中心の販売事業や機械等の購買事業全森連は森林災害共済の元請けとなっている

もおる。 は行っている。また、系統全体の要求にもとづれて政府に法律、予算、政策面での折衝を行うれて政府に法律、予算、政策面での折衝を行う

## 二、森林法から森林組合法へ

それまで森林法の中に盛り込まれていた森林組合の規定が一九七八年に分離され、単独の森林組合法が制定された。二〇世紀最後の団体法がはないかという当時の内閣法政局長官発言もあったようだが、これにより森林組合が国の政あったようだが、これにより森林組合が国の政治を対していた。二〇世紀最後の団体法をの力を対していた。

日中国交回復前後、民間ベースの日中林業交に移行したことを受けて、組合員の不信感は容易に消えなかった。
田中国交回復前後、民間ベースの日中林業交に移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合が同様の方針をに移行したことを受けて、組合員の不信感は容易に消えなかった。

への依存が多いため、組合としての自主性は決という点がある。森林組合は補助金や政策融資職能別組合であるため国の政策に適合しやすい日本の協同組合法制はタテ割行政に対応した

動体であるということを忘れてはならない。れにもとづいて独自の要求を打ち出していく運ての自主性は必要であり、経済事業をのばしそ林組合だけは森林組合法に基づく協同組合とししかしながら、他の林業団体と比べれば、森して強いとは言えない。

## (1) 共販事業と林産事業三、事業の展開

めの組合であった。 を編成するための組合、強制伐採に協力するた森林組合は長い間国の政策手段として施業案

関連する林産事業も伸びていった。これが組合員の信頼を得、丸太販売が進展し、調べ、市況を読みながら販売することになった。明べ、市況を読みながら販売することになった。いた。それを組合が立木の本数や材積等詳細にいた。それまでは、組合員個々人が木材の量も市況

## (2) 作業班編成

入れた。 くれた。 大れた。 大いう組織を 大れた。 大れた。 大れの代採や搬出のた 大れた。 大れた。 大れののが のが必要になり、 た業班という組織を 大れた。 、 大れた。 大れた。 大れた。 大れた。 大れた。 、 大れた。 大れた。 、 

国や県の行政関連事務をしていた時と違って、このようにして雇用労働者が増えてくると、

本込まざるを得ない。
を備等、山村過疎対策とも言うべき点にまで踏ち、仕事量の確保や社会保障の整備、生活環境
方動者の生活保障を考えねばならなくなる。即

逆に言えば、地域住民は働き掛け次第でいっ 逆に言えば、地域住民は働き掛け次第でいっ らの人口流出を防ぐ眼に見えない「経済的ダム」を築くことだとしている。

\*青山宏「ある山村の革命」

## (3) 国産材産地形成

木を植えて丸太を生産するだけでは金の大半本を植えて丸太を生産するだけでは金の大半ないう点で一致できる業者とは提携し、国の補たがら、本材の付加価値を高める方向が模索されるようになった。青山宏氏も組合長時代に、木材の付加価値の極大を求めるという考え方にたって製材・加工から住宅生産にまで事業を拡げた。しかし、これらには技術や設備投資が必要でしかし、これらには技術や設備投資が必要でしかし、これらには技術や設備投資が必要でしかし、これらには技術や設備投資が必要でしかし、これらには技術や設備投資が必要でしかし、これらには技術や設備投資が必要でしかし、これらには技術や設備投資が必要でしかし、これらには技術や設備投資が必要で表対では、当の権力を持つでは、当の権力を対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を、まる、対象を、対象を、対象を、も、対象を、対象を、対象を、対象を、対象を、対象を、対象を、なり、対象を、なり、対象を、対象を、も

とられている。助を得て加工協同組合を組織するという方策が

動の中心を担うのが森林組合である。
に地域の木材を活用していくなどの具体的な活形成の核として、外材攻勢に抗して公共施設等で成の核として、外材攻勢に抗して公共施設等

## 4 林業労働力再編と機械化

現在の日本の年間の成長量は人工林だけでも、現代では非常に困難だ。

一番の問題は労働力だ。特に伐出作業には若年労働力が不可欠であり、その確保の方策を考えなくてはならない。林野庁は「流域管理システム」の構想の中で、流域ごとに林業労働力センターを設置し高性能機械を整備するとしている。しかし、現実には国有林の生産量減少により国有林と結び付いた木材業者と、民有林の森外組合とが、お互いの利益と生活を掛けた凌ぎへいるのが実情だ。

る。

ないのではできない部分を担っていた能労働者を養成し、かつ高性能機械を購入したいる。例えば静岡県森連では、連合会が若年でいる。例えば静岡県森連では、連合会が若年でがる。

位のものと並行して、県一円の事業展開をしてこの例に見るように、広域合併も数ヶ町村単

▲質量・甘油/
生産体制はできないと考えている。
いかない限り、国産材時代に対応する民有林のいかない限り、国産材時代に対応する民有林の

## ≪質疑・討論≫

◇森林組合への加入率が昭和五二年度以降下が

◇吉野のような借地林業の場合には、加入するでも組合をあまり利用していない。 所有者が多い。大規模所有者は加入はしてい田中 加入しなくなっているのは圧倒的に零細田中 加入しなくなっているのは圧倒的に零細田中 加入しなくなっているのは圧倒的に零細田中 加入しなくなっているのは圧倒的に零細田中 加入しなくなっているのは圧倒的に零細田中 加入しなくなっているのは圧倒的に零細田中 加入しなくなっているの場合によります。

中 借地林業は過去歴史的に存在したものだが、吉野地方では不在村大所有者の森林を管理する山守がいて、はじめは山を持たなかったが、素材生産を請負うちに五〇~六〇na程度の中所有者となった者もおる。戦時中から度の中所有者となった者もおる。戦時中から下が、素材生産を請負うちに五〇~六〇na程度の中所有者となった者もおる。戦時中からが、吉野地方では不在村大所有者の森林を管理する山守が、大村の伐採量に応じて組合員から賦課金が一〇数年前が、市場が、大田の人間なのか。

なかなか生まれにくい。
このような構造では、新しいエネルギーは

○不在村所有者には二通りある。一つは本来の地域社会に対応した組織とは言えない。田中 竜山森林組合においては面積の約半分が不在村所有者だが、これらが造林から伐採を全て組合にまかしてくれるので逆に事業計画が立てやすいという話をきいたことがある。不在村が多いということは、組合としての共不在村が多いということは、組合としての共力が立てやすいということは、組合としての共力を表表している。

として山を買うケース。ケース。もう一つは都市の資産者が投資対象在村だった者が離村して山を降りてしまった

◇今後の林政の課題の一つは、不在村をどう扱 うかだ。経営権と所有権を分離し、不在村地 主は一定の収益の配分のみで経営権はなく、 地元が一括して経営するという仕組みが必要。 のなど少しずつ進んではいるが、憲法に触れるなど少しずつ進んではいるが、憲法に触れるなど少しずつ進んではいるが、憲法に触れる面もあり難しいようだ。

◇森林組合の広域合併が強力に進められている

田中 地域の条件によっては、農協との合併を田中 地域の条件によっては、農協との合併を

◇地方自治の観点から言えば、末端の自治会組分地方自治の観点から言えば、末端の自治会組

日中 下流の方には報徳社の組織があったが、田中 下流の方には報徳社の組織があったが、日治組織の民主

◇戦後の「民主化」も、山村での労働力再編過

ようだが。 程にある人々の意識にまでは作用しなかった

田中 山村については農地改革に当るものがない。 本ったため、全体的に保守傾向が強いことは かったため、全体的に保守傾向がみられる。 理事者には、そのような傾向がみられる。 で立域合併による大規模化が進めば、自分たち の土地を自分たちの手で管理するという協同 組合員としての認識は、より薄れていくので 組合員としての認識は、より薄れていくので

田中 青山宏氏は広域合併に反対し、「火の見田中 青山宏氏は広域合併に反対し、「火の見いました。」

◇かつて、林業行政で特徴的だった点は、市町

田中 行政側からすると、森林組合が使いやすいったことと、森林組合に頼らないと山の実態がつかめなかったことがある。山村においきがつかめなかったことがある。山村においきがつかめなかったことがある。山村においきがつかめなかったことは確かだ。

り危険だ。 り危険だ。 り危険だ。 の危険だ。 の危険だ。 の危険だ。 の危険だ。 の場代にもつながる。森林組合が単独 を強くなろうとすれば、どうしても採算性重 で強くなろうとすれば、どうしても採り性重 を強くなろうとすれば、どうしても採り性重 を強くなろうとすれば、どうしても採り性重 を強くなろうとすれば、どうしても採り性重 を強くなろうとすれば、どうしても採り性重 を強くなろうとすれば、どうしても採りが、森 を関いており、その上に林業が成り立っ

田中 協同組合の理念は、資本の組織である株田中 協同組合の理念は、資本の組織であることだが、 は会社とは異なる人の組織であることだが、 は原理の上にたっている。

日本の森林組合の手本となったのはドイッ と言っても、日本のように恒常的に事務所が と言っても、日本のように恒常的に事務所が と言っても、日本のように恒常的に事務所が と言っても、日本のように恒常的に事務所が と言っても、日本のように恒常的に事務所が と言っても、日本のように恒常的に事務所が はないのではないか。「組合」

## 国内製材の動向

―紀伊半島から―

参加者(敬称略)内山・竹内・土田場所 学士会分舘

一、製材産地としての田辺

◇九州の諸塚村では、個々の農家が安定した農

組織本来の意義を見失いがちだから。自らを維持し、存続しようとの原理が働き、のかもしれない。固定した組織はどうしてもしかし組織というものはもともとそういうもドイツに行っていないのでいずれも推測だが。

持続的林業を図っていく点にある。 森林組合の事業の特色について補足する。 森林組合の事業の特色について補足する。 一、森林組合の持ち味は造林と素材生産ののに対し、森林組合は圧倒的多数(六ているのに対し、森林組合は圧倒的多数(六ているのに対し、森林組合の事業の特色について補足する。 ・ 本林組合の事業の特色について補足する。

また、森林法における「森林所有者」の定 、森林組合の大きな相違点がある。 また、森林法における「森林所有者」の定 なるが、森林法における「森林所有者」の定 なるが、森林法における「森林所有者」の定

㈱山長商店副社長欅山長林業㈱専務榎本長治

かせて商い、さらに明治以降は植林により山を免め、大の傍ら山を少しずつ買い、その山で炭を焼物も手掛けるようになり、炭や線香も扱った。物も手掛けるようになり、炭や線香も扱った。湾の一番奥に当たる新庄町に私の家がある。田辺市は紀伊半島西側の田辺湾に面しており、田辺市は紀伊半島西側の田辺湾に面しており、

育ててきた。

費者まで届けたいとの考えから、製材所に賃挽 材工場を持とうと研究を始めた。 きをさせ、製品にして販売する一方、自前の製 なった。祖父は、自分の手で育てた材は直接消 て伐期となり、自分の山から材を出せるように この時の木が、大正初めから昭和初めにかけ

期からだが、和歌山での歴史を追ってみよう。 製林業が一般に盛んになり始めたのは昭和初 戦前まで

工場が立地するようになった。 の龍神村と田辺を結ぶ索道が出来、周辺に製材 新庄村文里湾沿岸の塩田の埋立地に日高川上流 た製品を東京や大阪の市場へ出していた。一方、 で、各河口には製材所が建ち並び、賃挽きさせ 河川の筏流しや管流し等の流送によっていたの 木材搬出は日置川、古座川、熊野川という大

戦後~昭和三〇年代

なった。しかも天然の良港を抱え、東京や大阪 田辺にはかなりの数の製材所が集中することと なことから、河口の製材所が衰退していく一方、 位置を占めることとなったのである。このよう れて、田辺は各河川の集荷点をヨコに結ぶ要の 形で国道三一一号線が出来、林道が次々新設さ 送形態が河川の流送からトラック輸送へと変化 したことがあった。即ち、紀伊半島を横断する た。その背景には、戦中から戦後にかけて、輸 五年自前の製材工場を文里港の埋立地へ建設し 目社材を製材させて販売していたが、昭和二十 父は、戦争直後共同での製材工場に参画し、

> して栄えさせた。 への船積みに便利な点も、田辺を一大製材地と

るなら製材には手を出すなと言われる所以であ は、次のような要因から大変難しく、林業をや はやめてしまっている。林業と製材業との両立 ていた林業家は多い。が、その殆んどは現在で 全国的に見てもこの当時目前の製材工場を持っ

その割には利が薄く、相場変動によるリス は日々刻々の動きに対応した売買が必要。 く違う。林業は長期サイクルだが、製材業 林業と製材業とでは資本のサイクルが全

ら、林業経営の能力を越えた過伐をしてし 製材原料としての原木を確保する必要か

立木―丸太―製品の各段階ごとに材積の測 かもわからない。 最終的に自分の山の木がいくらで売れたの り方が異なるため、価値の比較が難しく、 原価計算が難しく、経営判断をしにくい。

木材自由化以降

てしまった。 るような状態だった。そこへ米材が入り始めた 料不足を補うため四国や九州から買い付けてく だった山の木は殆んど伐りつくしてしまい、原 ため、田辺の大手一〇社は外材製材に切り換え 同時に昭和三〇年代初め迄には、伊勢半島の主 復興需要により製材業は大きく進展したが

当初は、米材の主要製材産地は田辺の他には

く低下した。 捲するようになり、最近では田辺の地位は大き 的役割を果した。その後、外材が日本全土を席 り、山の買い付けをするなど、米材輸入の先駆 清水と広島であり、商社を伴ってアメリカへ渡

二、内地材製材

の原料集積はできにくい。 ると値が高くなる。従って構造的に安い価格で 程安くなるが、内地材は一本から数十本をセリ で落としていくので、大量に買い集めようとす 内地材製材自体の抱える様々な難しさにもある。 である上大量輸入が可能なので、まとめて買う れているが、その要因は外材攻勢だけでなく、 ① 原料確保…米材の場合には、品質が均 昭和四〇年代以降大変困難な状況に追い込ま

製材工場も伐出班(山林部)を抱え、山から直 固定費を抑えるというメリットがあった。 大きくまとめて買うことは、量的確保と出材の 接自社工場へ入れる仕組みだった。その中では、 市場への対応…田辺ではかつてはどこの

いくにつれ製材業者の市場依存度が強まっていっ トも併存しているものの、市場機能が充実して ると、山林所有者との直接売買という従来のルー しかし、県森連等により原木市場が形成され

特化していった。同じような径級を挽くことで とから、柱材専門、小丸太専門などというよう に各製材業者が自分の得手のものを挽くように ていたのだが、市場での選択が可能になったこ 昔は一つの山から出てきた材は何でも製材し

と。 生産効率は上がり、大量需要にも対応可能となっ

ものをいかに効率よく取っていくかが重要。 歩止まりが良くても売れなくてはダメ。売れる 焼くスピードや挽き肌、挽き曲がりを左右する。 挽くスピードや挽き肌、挽き曲がりを左右する。 が、る工程上の問題もある。ノコの目立て技術は、 る工程上の問題もある。ノコの目立て技術は、 を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる が、 を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる が、 を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる が、 を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる が、 を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる を上まりが良くても売れなくてはダメ。売れる

る程度の価格はとれる。販売…製品の販売方法には小売と卸売がある。地場需要向けの小売製材の場合には、高ある。地場需要向けの小売製材の場合には、高ある。地場需要向けの小売製材の場合には、高いる。

卸売の場合は地場だけではなく、東京や大阪となった現在では製品市場へ出荷し、それを小たなった現在では製品市場へ出荷し、それを小たなった現在では製品市場へ出荷し、それを小を店が買い付けるという形態が一般的だ。

これらをどう組み合わせて売っていくか、自

化が著しく若年労働者の参入が少ない。労働条⑥ 労務管理…御多分にもれず労働者の高齢社の性質を勘案して判断しなくてはならない。

件等の改善が課題。

⑦ 生産管理…一人が一日に何石挽くかという計算方法をするが、その格付けの仕方が信用を左製材メーカーが個々に独自の等級格付をしてい般に十分浸透しているとは言えない。実際には般に十分浸透しているとは言えない。実際にはるケースが多く、その格付けの仕方が信用を左右する。

めてどう売っていくかが問われる。く、売れないものまで出てくる。それらをも含くかも、ある等級の材のみが揃うわけではな

三、紀州林業の現状と課題

スト高という所もある。 スト高という所もある。 スト高という所もある。 スト高という所もある。 スト高という所もある。 スト高という所もある。 スト高という所もある。 スト高という所もある。 スト高という所もある。

ば、当然原木価格は採算が取れないほど値上がが生じてきている。第一に危惧されるのは、原料の高騰である。第一に危惧されるのは、原料の高騰である。が生じてきている。

りしてしまう。

間にかなりの軋轢を生むことは明らかだ。本不足の恐れがあり、森林組合の参入は両者の伸びると予想されている。従って現段階でも原既存の各メーカーともかなりの機械化を進めて既存のといい近年、労賃の高騰等に対応するため

してうまく回転しない。それに合わせた加工体制を作らないと、全体と然度は日本の地域、地域によって様々に異なる。熱度は日本の地域、地域によって様々に異なる。

〈紀州材の銘柄化〉

和歌山県の林業は、尾鷲、吉野という著名産の補完をする形になっていた。のまり両産地の中間から下位の材造っていた。つまり両産地の中間から下位の材送っていた。つまり両産地の中間から下位の材が出ると、地元で挽くよりも高くの補完をする形になっていた。

年から「紀州材」の銘柄化運動を開始した。なくなってしまうとの危機感を持ち、昭和五八前を前面に出して売っていかないと産地の力が前を前面に出して売っていかないと産地の力が

ていたのである。今の外材と同様の地位を戦後の復興期には占めいたため、東京市場では名が通っていた。即ちかつての「紀州材」は並材を大量に生産して

展を東京において開催した。以来、毎年春秋のめて手を結んで、昭和五八年に第一回の紀州材大きな危機感を与え、林業家と製材業者とが初田和五六年頃からの不況は、林業経営者にも

な取引きをするまでに成長した所もある。メーカーの中には東京での得意先ができ、対等地域としての力をつけてきた。一○年を経て、や展示方法の勉強などを体験しながら、一つの二回ずつ開催し続け、メーカー同士の切磋琢磨

〈今後の問題点〉二ヶ所で常設展示を行うこととなった。四段置を要請してきたので、今年からは都内のの設置を要請してきたので、今年からは都内のののような実績から市場側も紀州材コーナー

## 〇伐期

四〇年生位ということになる。本格化した。従ってこれら植林木はトップでも頃から始まり、全国的には昭和二八、九年から戦後の植林は薪炭林需要に翳りが見え始めた

原木の価格は六〇年生以下と以上とでは格段の差があるので、理想としては六〇年生以上八〇年生位の範囲内で伐探している。それにしても、程絞り込めないので、私の所も五五年以上八〇年生位の範囲内で伐探している。それにしても、戦後植林木の本格的皆伐期は地域により異なるが紀州ではまだ一〇年から一五年程先である。しかも戦後植林木は面積的にも全国の造林地のしかも戦後植林木は面積のにも全国の造林地の人工名を占めている。今後の一〇年間は、間が紀州ではまだ一〇年から一五年程とでは格段の差がある。

## 〇人子

業の必要労働量の減少とが、バランスを取ってこのためどちらかというと山村の人口減少と林頃、山村からの人口流出が顕著になってきた。戦後植林部分の最も手のかかる時期が過ぎた

推移してきたといえる。

的である。 出業者や森林組合の労務班における状況は危機なく、深刻な労働力不足が生じている。特に伐なく、深刻な労働力不足が生じている。特に伐ている上、賃金の相対的低下から新規就職者もしかしここへ来て、労働者の引退年齢が早まっ

今後も労賃は上がる一方であろうし、社会保障の充実も図からねばならない。それに対し伐出技術が進歩している訳ではなく、最近タワーキーダなどの高性能機械が徐々に導入されてはいるものの、価格も高く、利用出来る場所も限られている。従って、労賃の上昇分や社会保障の負担分を吸収することができない。しかも、この分を製品価格に上乗せすることはできないから、最終的には立木の価格に食い込んでくる。今後の林業、木材産業にとって最大の課題は伐出である。日本に合った高性能機械の開発とはいと、資源は成熟してくるが、それらを十分に出材するだけの労働力がどこにもない、ということになる。

てくる。

林業や製材業が泣いている、という図式が見え

四、世界の動向

米材(ダグラスファーやへムロック)は、シの動きがある。

北洋材は、ロシアの国内事情や貿易バランス

保護の点から出材が抑えられている。の関係から出材が減少している。南洋材も自然

動車や半導体といった先端産業の突出のために動車や半導体といった先端産業の突出のために世界的な価格調整があろうと指摘している。に世界的な価格調整があろうと指摘している。に世界的な価格調整があろうと指摘している。に世界的な価格調整があろうと指摘している。以上のように様々な面から、木材資源は世界以上のように様々な面から、木材資源は世界

昨年アメリカのある日本向け木材輸出会社を が大半であるが、原木供給の逼迫は確実であ が大半であるが、原木供給の逼迫は確実であ り、その意味でも、世界的規模での木材の見直 しが近い将来にありうる。

の対策がなければいけない。

の対策がなければいけない。

の対策がなければいけない。

の対策がなければいけない。

の対策がなければいけない。

の対策がなければいけない。

の対策がなければいけない。

の対策がなければいけない。

## ≪質疑、討論≫

四五○○石だが、内地材の方が価格が上なの様本 生産量は原本で米材八五○○石、内地材◇現在手がけている米材の比率はどの位か。

材五○○○石を挽いている。で、売り上げ高では同程度。また別会社で米

〜製材工場の分化が進んでいるが、国内材時代

◇その意味では、国内材による住宅作りを進め

本 最近の林政では、流域管理システムと銘が、一つの経営体を考えるなら、経言われるが、一つの経営体を考えるなら、経言われるが、一つの経営体を考えるなら、経営者感覚を持った人物が意思決定する仕組みが必要。単なる合議制ではうまくいかない。住宅に関しては、建築構造自体が変化している点を付け加える。日本建築は内装材と構いる点を付け加える。日本建築は内装材と構造材とが合致している点が特徴であり、そこに現在の価格構造が作られている。ところが日本間が減り、大壁工法の洋間ばかりになって、四方無地の柱などはいらなくなっていく傾向にある。

◇逆に有節材もきちんと乾燥して用途を広げる

はないのか。 はないる。問題は、手間を はないのか。

榎本 節の有無は実用強度にはほとんど関係ない。日本間の柱などでは当然節のない柱が好る方が節の出方は少なくなる。一本の木からる方が節の出方は少なくなる。一本の木から一本の柱を取るのが日本の製材方法だが、育林面から言うと仮に三寸五分の柱であれば、直径が八㎝位になるまでに枝が落ちていないと無節にはならない。一 h3 当たり一万本位の密植なら細いうちに枝が落ちるが、普通の植栽では自然には落ちない。私の所ではヒノキの枝打ちは、直径五、六㎝を目標に打ち上げれているが、四寸角ならばもう少し太くなってからでも間に合う。値段も四寸角の方がいくらか安い。

◇技能訓練は個々の工場でやっているのか。 ◇和歌山県では山の所有はどう分かれている ◇和歌山県では山の所有はどう分かれている ◇和歌山県では山の所有はどう分かれている ◇和歌山県では山の所有はどう分かれている ぐ和歌山県では山の所有はどう分かれている を被 大体はそうだ。技能学校もあるが、その 大橋の資金を使っ で、林構の資金を使っ で、お構の資金を使っ で、お構の資金を使っ で、お構の資金を使っ で、お構の資金を使っ に若い後継者を養成しているところだ。

ほとんどが私有林である。植林木と土地を同榎本 和歌山では九五%が民有林であり、そののか。

落に返させる仕組みがあった。

本の土地に植えて収穫する権利とが分離されている場合がある。後者が地上権山と言われている場合がある。後者が地上権山と言われている場合がある。後者が地上権山と言われる場合と、土地の所有権と、

た所も多い。 るため売却し、その結果個人の所有地となっもあるが、公共事業の地元負担金をねん出すい。

仕立てることを使命としていた面さえある。うものは社会からの預り物であるとの考えをがある。祖父などは、どちらかと言うとホザいい管理をしなくてはいけないという気持ち持っていた。それだけに、国有林などよりも持っていた。それだけに、国有林などよりもどの様な形態であれ、祖父も父も山林といどの様な形態であれ、祖父も父も山林といどの様な形態であれ、祖父も父も山林とい

# 水源の村と山村の水利用②

# 台風被害から学ぶもの

三重大学教授 福島 康記

9月17日

本年五月、山形大学有永教授と、とりわけ被害の大きかった大分県の、その中でも激甚な被害を受けた玖珠、山国、日田など、三津江地方を除く被害地域を見た。そこでは、通常の台風を除く被害地域を見た。そこでは、通常の台風を除く被害地域を見た。そこでは、通常の台風を除く被害地域を見た。そこでは、通常の台風を除く被害地域を見た。そこでは、通常の台風を除く被害地がように風道の木が全部倒伏または中折れしたのではないかとすら思われたほどで、するまじい状況だった。スギ博士といわれた佐藤が二氏の所有山林を見たが全て幹の中途から折れていた。技術的に管理された山でさえこうした式元どった。

で観測史上最大規模の暴風に晒されることとなっ 台風の中心速度で加速されたため、これら地域 渦の中で台風の進行方向と一致したベクトルが、 暴風圏の右半円に入った地域で、台風の大きな り、その中心速度が加速したちょうどその時に 港)、六○・九メートル(阿蘇山)という規模 風一七~一九号によってもたらされた。特に 災害の記録―台風一九号等災害復旧対策調査検 各林業地帯は、台風一九号がジェット気流に乗 で、「甚大な被害を受けた日田、八女、小国の 九号は最大瞬間風速五九・九メートル(長崎空 害は、昨年九月上旬から下旬にかけて襲った台 討委員会報告書」(平成四年)によるとこの被 ての報告書により、まず、被害状況を見てみる。 たと思われる。」「地域あるいは局所により、 まず、林野庁監修「台風一九号等による森林 これまで出された、幾つかの台風被害につい

> る。 はないことを物語っている。」などの記述があり、一様な風が被害地全域に吹き荒れたもので竜巻状の暴風が発生消長を繰り返したものもあまた、地形の影響により非常に変化があった……

この台風の被害が甚大だったのは、秋田・石に、宮崎・鹿児島を除く県)だった。全国の被害は、二一五九億円に達した(森林被害一五〇七億円、林道一〇二億円、林地荒廃五五一億円)。この被害額は、わが国の風水雪害では過去最高で、損害保険会社の支払いは三六七〇億円に達し、過去最高の九〇年九月の三六五億円の一達し、過去最高の九〇年九月の三六五億円の一達し、過去最高の九〇年九月の三六五億円の一達し、過去最高の九〇年九月の三六五億円の一本ので、一国の被害としては最高のものだったもので、一国の被害としては最高のものだったもので、一国の被害としては最高のものだったもので、一国の被害としては最高の被害をだしてカランドやドイツなど数カ国に及ぶもので、一国の被害としては最高の被害をだした。

を見てみる。 前記調査検討委員会の報告から、被害の特徴

○前面が開けた南から北方向、南西斜面下の前面が開けた南から北方向、南東から北西が開けた南から北方向、南東から北西

②東西方向へ絶壁状に伸びる南斜面。

③北向きの大きな斜面のなかにある起伏の南

⑤南に開けた谷の曲がり南の凸斜面。④台地状の広く平坦な地形。

②同じ強風を受けたであろう林分でも林縁木①広く分布しているスギについては、品種の▽森林状態と被害の関係

周辺林分の被害が目立つ。形状比が高い林分、開通したばかりの林道の強度の間伐をして間もない林分、高密度で

のみが残った箇所が数多く見られた。

倒伏型の被害だった。

おは幹曲がり、幹折れが多い。⑤激害地域周辺の比較的風圧の弱い地域のス

▽スギ品種による被害

た林型が被害を増やした。で台風も少なく、挿し木の極早生で一斉に揃って台風も少なく、挿し木の極早生で一斉に揃っ

②根がしっかりしているものに幹折れが発生③い箇所、火山灰土地等では倒伏~根返りが多発な土壌環境や基岩の浅い箇所、土がほぐれやす9)では、①根系の発達規模の小さい湿潤92・9)では、①根系の発達規模の小さい湿潤

などとなっている。 傾斜度四五度内外以上の急峻地では倒伏が多い、

復旧の状況

業職員は、四森林組合に二九人、高性能機械は 価低迷に対処する計画だったが、そのセンター 画だ。六月末現在、六八三へクタールが整理さ 年で七〇〇〇ヘクタールの処理が必要という計 いる。 だしても返事すらよこさなくて、隘路になって 部隊の旅費ほか、自衛隊の資材・設営費用など 昨年発足させた。これまでこの事業に係った作 の発足を繰り上げて、県費二〇億円を投入して 定・社会保険などの完備をして労働力不足や材 を確保する計画をたてていた。そのため、事務 能機械を導入し、基幹作業職員三〇〇人の雇用 れ、造林されたのは五五へクタールだ。県では、 あり、特に不在村所有者は、復旧作業の案内を 五%は国費で助成されるが、五%の自己負担が の県費負担も多大のようだ。所有者の側でも九 経費の三倍はかかるといわれ、県外からの応援 て対応している。災害地の伐採搬出には通常の 職並みの賃金に作業手当てを付加し、身分の安 八カ年計画で、森林整備センターを設けて高性 一九台いれてそれら組合ほかに無料でリースし 激甚災害法が適用されたが、大分県では五カ

災害復旧というより、いざという時の避難場所れ、急傾斜地の多い山国町では、梅雨を控えてある場所では、降雨などによる土木流が心配さ次災害の危険性もある。急傾斜地の下で集落が次災害の危険性もある。急傾斜地の下で集落が

の検討が真剣におこなわれていた。 森林整備センターでは機械の訓練センターと もなっているが、機械が現地では効果を上げて はいるものの、いままでに経験のない作業だけ に、作業の技術・段取りなど研究し開発しなが らすすめている。また、西欧で土木機械から進 化した林業用高性能機械だが、わが国には災害 を機に導入が増えている中大型機械の安全対策 や、日本の人工林に合った改善が今後も必要。 たまたま災害を契機に大分県は県レベルで今後 の対策を取ったが、今回の災害に無関係の地域 でも同様の対策が必要であり、大分県を先駆的 でも同様の対策が必要であり、大分県を先駆的 事例と考えるべきだ。

今後の課題

じまり、三〇〇〇万立方メートルを割った。 のが拡大造林だった。一〇〇〇万へクタールの よって過剰化した労働力の就業の場を提供した 林だ。今回の災害を局地の災害とみては誤る。 きた、その実績が一〇〇〇万へクタールの人工 におき、助成によって森林資源造成を推進して いても林地に対する近代的所有権の確立を基礎 ても労働力不足を要因として生産量の減少がは として露呈されたとみている。木材生産におい つの表れだ。その矛盾が、たまたま台風の被害 市場に組み込まれたわが国経済の構造問題の一 人工林は山村の遺産と言うべきもので、その画 高度経済成長下農山村の解体過程で燃料革命に 一性・人工的脆弱性とともに保育の遅れは国際 明治以降近代化政策がすすめられ、林業にお その対策として林野庁は、労働力確保、材価

可能性もある、林地所有・利用の零細分断をど 可能性もある、林地所有・利用の零細分断をど が、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し 対策、国産材供給拡大を狙い、森林法を改正し

然たる状態も問題である。
現地では、倒れた木の除去が困難な状況だ。
現地では、倒れた木の除去が困難な状況だ。
のパーセント、材を出しても
現本まで復旧率一〇パーセント、材を出しても
現地では、倒れた木の除去が困難な状況だ。

その先の造林になるとさらに困難で、日田市での報告書では、今後の森林造成の留意点といる。現地で尽力している人に気いと言っていた。復旧作業現場を見たが、椎葉など奥地からの出稼者が働いていた。それも先など奥地からの出稼者が働いていた。それも先など奥地からの出稼者が働いていた。それも先など奥地からの出稼者が働いていた。それも先など奥地からの出稼者が働いていた。それも先など奥地からの出稼者が働いていた。それも先など奥地からの出稼者が働いていた。

▽人工林施業上の留意点

①風に対する柔軟性のある二○年生までにあり風に対する柔軟性のある二○年生までにあ

③利用径級以上になれば間伐収穫を重視し、風に対し強い木を育てる。

## ▽立地による配慮

①地形的要因があったと思われる場所は、スの地形的要因があったと思われる場所は、スタヌギ・コナラの萌芽更新による短伐期施を対が迫られる。またシイタケ原木生産、クヌギ・コナラの萌芽更新による短代期をできている。

など上げている。 スギの造林を避ける。

開発が望まれよう。
一般的に言って、今後の造林技術の在り方は一般的に言って、今後の造林技術の在り方は

働力需要の発生をできるだけ抑えることが必要何れにしても当面は皆伐をひかえて新たな労

雇用労働力に頼る大山林経営者は不可能となるつ家族経営なら労働集約的な複層林はできるが、五〇~一五〇へクタールの優れた人工林をもだが、災害はまことに困った事態である。

私の経験を述べてみたい。

ものが多いだろう。

われた。 二次災害が心配で、五年間防虫と跡地対策に追良く良材があり跡地の処理もできたが、虫害の良・良材があり跡地の処理もできたが、虫害のトルの立木が台風の被害で倒れた。幸い市況も東大北海道演習林で八一年、八○万立方メー

その対策を立てるに当たり、五四年の洞爺丸台風の跡地の更新状況を十勝川源流国有林で見た。自然林の場合は災害は森林の更新を促す機た。自然林の場合は災害は森林の更新を促す機大。自然林の場合は災害は森林の更新を促す機大。自然林の場合は災害は森林の更新を促す機大。自然林の場合は災害は森林の更新を促す機大の災害の教訓を生かすどころかこの災害を契機の災害の教訓を生かすどころかこの災害を契機の災害の教訓を生かすどころかこの災害を契機に大面積皆伐・跡地の一斉造林を開出した。八一年の災害でも十勝地方でカラマツ林の被害が加速を開始した。

→○○年か二○○年に一回の規模の災害であっているです。林政の担当者として災害の教訓を消化して学ぶべきだろう。東大演習林長もした高橋延清名誉教授は「一○○年に一度という規模の災害には林業技術が対応できなくても、四分の一世紀に一度ぐらいの災害には対応できる技術を」といっている。有永教授は「水・木・緑をトーさい。本述の年に一回の規模の災害であっても、林政の担当者として災害の教訓を消化しても、林政の担当者として災害の教訓を消化しても、大阪の人

周知するべきだろう。が、他の分野の人を含めて討議し、その情報を

技術体系の確立を急げ。
①所有形態を越えてこれからの時代の施業のや
最後に私の提言を申し上げたい。

公有林の拡充は効果的だが補償制度など問題の全体的な森林保全対策として保安林の拡充、の全体的な森林保全対策として保安林の拡充、でいる。手入れをどうすすめるのか。路網整でいる。手入れをどうすすめるのか。路網整

④岐阜県では「山地災害に強い森林の整備に関の岐阜県では「山地災害に強い森林の整備に関

◇①戦前は防風林の研究をしていた人がいたが

いまは誰もしていない。②戦後高知県で防風いまは誰もしていない。③戦後高知県で防風に正されては使えなくてもパルプ材には使える。それでは使えなくてもパルプ材には使える。それがはでかなり風は和らぐ。林縁にマントのようなでかなり風は和らぐ。林縁にマントのようなでがさせてはどうか。戦時中も間伐材でこうした政策をとった。

均一化した。逆に材価があがった。また材価の西高東低が

◇貯木場は材でどこも満パイで、スギは一立方

◇枯れた木の根が腐ったあと、新しい木の根も◇ヒノキの価格も半分になっている。

◇倒壊地で焼畑をしてはどうか。 雨などで一気に流れる恐れが心配される。 雨などで一気に流れる恐れが心配される。 いまは当面策で追

かる。播種・かき起しなどが必要。 なか出ない。広葉樹になるには時間が相当か福島 平坦地ではササがでると後には木はなか焼けない。

◇日田は植え尽くし広葉樹の母樹もない。

新しい年をお慶び申し上げ、森林の保全、育成に お互いの力を傾ける年としたく存じます。 一九九三年 元旦 国民森林会議

会長 大內 力議 顧問 東山 魁夷

職員一同

# 林政ジャー

――<新聞・この三カ月>

【東京】9月3日―自然の案内人

育てよう―

成の資格認定制度をスタートさせ成の資格認定制度を柱とした提言をまとめ内人となる自然解説指導者の資格、同省は来年度中に基本計画を認定制度を柱とした提言をまとめ一次となる自然解説指導者の資格とで自然について説明したり、案どで自然について説明したり、案とで自然について説明したり、案とで自然について説明したり、案とで自然について説明したり、案との資格認定制度を表する。

指導・育成に当たる。
連営や維持管理、自然体験活動の施設への就職をあっせん。施設の施設への就職をあっせん。施設の方で自治体などの公的な自然教育方で自治体などの公的な自然教育の方では、環境の対象を認定されると、環境

りかえすー 【日経】9月12日―松くい被害ぶ

でわかった。百立方メートルの大も増え、被害を受けた松林は材木も増え、被害を受けた松林は材木も増え、被害を受けた松林は材木を増え、被害を受けた松林は材木

温小雨だったのが主因。によると、松くい虫が活動する夏によると、松くい虫が活動する夏

九一年度は北海道、青森県を除九一年度は北海道、青森県を除た四十五都府県で被害が発生、国有林は前年度より七五%増の十三万六千立方メートル、民有林は同一七%増の百二万八千立方メートル。

【東京】9月16日―林野庁が偽マ

値段は四本(一本百グラム)二種段は四本(一本百グラム)二の本物のマツタケの香料がつけらり本物のマツタケの香料がつけらり本物のマツタケの香料がつけられ、形も傘の部分が開かないなど、れ、形も傘の部分が開かないない。

水野庁は「消費者が本物と誤解林野庁は「消費者が本物と誤解体野庁は「消費者が本物と誤解を通じて生産者団体に①マッタケで販売する場合は、たを○○タケで販売する場合は、このするおそれがある」と判断。このするおそれがある」と判断。このするおそれがある」と判断。このするおそれがある」と判断。このするおきには、

. め た。

解消— 10月14日—大工さん不足

のではないか」と話している。 性的な大工不足と、資金難に苦し このほど工務店向けに商品化され む中小工務店に朗報。 を地元工務店に任せる新システム 事から屋根の取り付けにいたる外 た。今回開発されたシステムは慢 「Highシェルター」を開発。 形造作だけを引き受け、内部造作 り寄せて、在来木造住宅の「産地 建設の原材料から大工さんまで取 - 全国的に初めての試みといえる (千葉市) が、住宅建設の基礎工 直送」を手掛けている千城建設 【毎日】10月15日―酸性霧深刻樹 高知県の木材業者と契約、住宅 建設省も

樹皮がはげおち、「白骨化」し木「白骨化」―

構皮がはげおち、「白骨化」したダケカンバが延々と続く。群馬・ 七八メートル)の山頂近くでこの 七八メートル)の山頂近くでこの 立ち枯れ現象が深刻な様相を見せ 立ち枯れ現象が深刻な様相を見せ 立ち枯れ現象が深刻な様相を見せ がる。四年前に始まり、標高二 の○メートル以上の北東斜面 にがる。群馬・

馬県内の市民団体「森林 (やま)この不気味な現象について、群

10月

四年間の観測を総括し、大気汚染 摘する。 物質により「酸性霧」が原因と指 の会」事務局長の宮下正次さんは、

ロシア、モンゴルの環境担当行政 環境庁が十三日から、中国、韓国、 霧との因果関係は未解明」という。 れているが、環境庁は「酸性雨・ 室は今夏、現地で平均PH三・六 す雨、霧を検出した。 七という都心並の高い酸性度を示 突然の立ち枯れは各地で報告さ 林野庁森林総合研究所森林災害

**入きなテーマになっている。** 【日農】10月16日―農林家の命奪

官らを招いて新潟市で開いている

環日本海環境協力会議」でも、

発生している。 も山林被害が甚大だった大分県で の台風十九号による風倒木の伐採 十五日の農民医学会で報告された。 農林家の命をも奪っていることが 作業が、林業被害ばかりでなく、 十一人が犠牲に —— 。昨年九月 十一人の犠牲者は、九州でも最 台風被害の復旧作業で、林業家

と調査したJA大分厚生連の下郷 診療所の三上英範医師。 テランでも予測がつかない状況. 業環境を悪くしており、「山のべ 雑に重なり合っていることが、作 作業が急勾配の斜面で、木が乱

旧作業はまだ一〇%。これからま がある耶馬渓町での台風被害の復 だ林業災害は起こり得ると、三上 医師は心配する。

どの、 話す。 とか、特別の加入制度を設けるな はゼロであり、適用範囲を広げる 業家の安全対策の遅れは明らか。 さらに農業労災の加入は林業家に しておらず、自営業者である農林 災害の実態さえも行政は把握 対応策が求めれている」と

11

【日経】 11月9日―リサイクル角

並みにする技術を開発した。 放置されていた木を圧縮加工、強 長が悪いために間引きされ、山に **度や堅さを樹齢七、八〇年の樹木** 加工は原木を三・五㎞の巨大な 奈良県林業試験場がこれまで成

現在は一日に、一、日二本が限度。 築の際に柱などに使われる樹齢七、 らかくし、それを熱いままプレス 量産化などの面で課題が残ってい 八〇年並みに生まれ変わるという。 する。これで比重、強度ともに約 約二時間冷却し丸太ならぬ角太に 分で四角や長方形になる。さらに 機で四方から圧力をかけると約五 二倍、堅さは約三倍以上。住宅建 レンジに入れ三〇分ほど加熱し柔

るという。

と感じている児童が多い。 さ」などは圧倒的に「良くなった」 は「悪くなった」がほとんどだが、 変化を聞いたところ「床の振動\_ た五、六年生(五三人)に環境の 「転んだときの痛さ」や「冬の寒 〈温・湿度〉床付近の年間の温度 〈実感〉四年生までRC校舎にい

度は三〇一八〇%と大枠を定めて 生の基準」は、教室の温度を冬は と湿度を比較した。「学校環境衛 木造の方が高い。 いる。この基準で収まる度合いは 〇度以上、夏は三〇度以下、湿

実現求め総会

%。「冬、頭が痛くなるようだ. 装木質四二・二%、RC四六・二 えた比率は、木造一三・六%、内 るようだ」の項目で「多い」と答 九%、RC二二·七%。 造で一〇・八%、内装木質一二・ 〈ストレス〉「夏、体が疲れてい 〈インフルエンザ〉学級閉鎖は木

【朝日】11月9日―木造校舎ブー

の項目でも、「多い」の比率は木

間かけて検証した。 築もようやく変わり始めた。愛知 光助教授らの研究グループが二年 教育大学の高橋丈史教授、小川正 クリート造り一辺倒だった学校建 になってきた。味気ない鉄筋コン の一部に木材を使うのも当たり前 木造校舎が急増している。内装

造一三・六%、内装木質一五・五 ネシアで植林を始めることを明ら 復活させるため、来月からインド 林野庁は一〇日、エビ養殖のため %、RC二〇%などとなっていた。 かにした。 に伐採放置されたマグローブ林を 林再生へ 林野庁― 【日農】11月11日―マングローブ 「海の焼き畑」を救え ――と、

の国有林に植林する。 のエビ養殖池跡地二〇〇ヘクター 画で六人の専門家を派遣、バリ島 求めてきていた。林野庁は五年計 生、回復するための協力を日本に らの撤退による荒廃地を早急に再 ルなど、全部で三〇〇へクタール 【朝日】11月6日―森林交付税の インドネシア政府はエビ養殖か

めていくことを決めた。 制度化に向け、具体的な検討を准 創設促進連盟」の設立総会が五日、 る「森林交付税」を実現させるた 林交付税フォーラム」を開いて、 長に選出。来年二月、同町で「森 を提唱した中山喜弘本宮町長を会 東京で開かれた。席上、同交付税 町村長らが集まり、「森林交付税 め、北海道から九州まで三二人の 山県東牟婁郡本宮町が提唱してい 森林を国全体で守ろうと、和歌

(新潮社・¥700)。 九三年版のカレンダーを出版されました 「京洛四季」と題した一九 京洛四季 顧問の東山魁夷さんが

飾っています。 節っています。 節っています。 「夏深む」「青い峡」「初紅葉」「照り」「夏深む」「青い峡」「初紅葉」「春の八九年の表紙にもなっています)「春の八九年の表紙にもなっています)「春の八九年の表紙にもなっています。

K田はととに環境を引う 会員の富レンダーです(二○・五×一四・三㎝)や街の風情を、座右において眺めれるカや街の風情を、座右において眺めれるカ

水田は文化と環境を守る 山和子さん 水田は文化と環境を守る 山和子さん をでました (㈱サン制作¥1200)。 と 愛媛県宇和町・静岡県御殿場市・鹿児島国分市・高知県十和村・富山県栃波市・島国分市・新潟県蒲原地方・岩手県一関県中村市・新潟県蒲原地方・岩手県一関県中村市・新潟県蒲原地方・岩手県一関 中・青森県十和田市・新潟県港町の清冽市・青森県十和田市・新潟県巻町の清冽市・青森県十和田市・新潟県巻町の清冽市・青森県十和田市・新潟県港町の清冽に入る。

「人間の内部には、論理以前の、ある「人間の内部には、論理以前の、あるのかどうかを…みてみたかった」と考るのかどうかを…みてみたかった」と考るのかどうかを…みてみたかった」と考える著者が、洋の東西を歩きながら鋭いという。

「『暗愚の民』の地位におしこめられていた民衆が、未来をつくりだす民衆へと転じていくには、その前の模索の歴史がある」という厳然とした事実を、西欧の論理的な「近代的思想家」は見なかったのではないか。資本主義も、社会主義も「ヨーロッパの理性」)が破壊してしまったのではないか —— と筆者は日本の山村やパリの市井での物語、ベルリンでの体験など 「民衆への信頼」に裏打ちされんつのエッセイ風な挿話で訴えているように思いました。

森と海とマチを結ぶ の会員である室

1

の水田の働きを説く詞を添えています。

2060)。

です。
です。
です。
です。
です。

ら位置づけています。 
ら位置づけています。 
ら位置づけています。 
ら位置づけています。 
ら位置づけています。 
ら位置づけています。 
ら位置づけています。 
ら位置づけています。 
ら位置づけています。

060)°

て『望星』誌上に連載した鼎談をまとめ トを招き、一九八二年から一三回にわたっ 野添さんと評論家の安田武さんがゲス

武さんが、「都市と農山村という異なっ 望と、同時に日々の暮らしを再構築して た視点から語り合う」企画として、この り作り直さねばならない」と考えた安田 いくためには、まずこの「型」をきっち 職人・主婦など多彩な人々が、崩れつつ 鼎談を選びました。 ある日本文化の質について語ります。 暮らしの『型』の喪失に対する深い絶 著名な学者も登場すれば、デザイナー

び掛けています。 そある」と指摘する鼎談は、日本人が受 当の豊かさとは、日常の暮らしの中にこ け継ぐことを忘れかけた伝統の復権を呼 気がつかなきゃいけない」ことや、「本 の生活が動いているわけではないことに 向を持っていた…けど、それだけで人間 通りこして、すぐ技術さえ習得すればい 主主義というのは、数量に頼りがちな傾 い」状態を生み、「戦後の合理主義や民 ればいいという風潮が…基本を作るのを 「早ければいい、便利で、合理的であ

説〉日本・世界の環境データ」と副題の 編集委員になって「〈図 会員の西岡秀三さんも

旅して」はEC諸国の機械・経営委託制

所・¥9600)。 ある本がだされました。(富士総合研究

けて容量が大きいだけに、データも詳細 関係機関・条約などで紹介しています。 の五部門に分けて国内外のデータを、年表・ 実態」「地球環境キーワード」「基礎データ」 | 世論調査データにみる環境問題意識と です。「地球環境総論」「環境データ」 A4版五七七ページと類書ではずば抜

郎さんが、農林統計協会から新しい本を だされました (¥2400)。 農業を地域のなかで考える 永田恵十 会員の

「地域としての枠組みのなかで農業経

しコラム風に紹介。第四章「EC諸国を 書」では、調査の見聞を鋭い視点で分析 求めます。第三章の「農村調査ノート賞 条件不利地域対策も紹介し日本的展開を より協創を」と主張しています。ECの と農業の縮図を中山間地域にみる」では、 などの役割を強調。第二章「日本の社会 営農システムをつくる必要を説き、農協 論を展開した本。 名古屋両大学に籍を置き、研究のため歩 は、稲作技術の空洞化の実態から、地域 いた国内外の農山村の実態をふまえ、持 営発展の道筋を考える」筆者が、島根・ "裏山の経済』の必要性を述べ、「競争 第一章「地域農業をめぐる諸問題」で

> 度や環境保全、農業の生産性向上運動の 認め、農業と農山村の復権を訴えています。 ど貨幣価値で評価できない農林業の効用を あることを憂い、国土保全や教育効果な 第五章では「持続的農業と環境問題」で、 結末などに触れ、日本へ示唆をします。 日本農業のもつ環境保全力が失われつつ

発行されたなかの一冊。このうち『隅田 史・文学』(名著出版・本誌143で紹介) 川』は先に発刊された『下町の自然・歴 名著出版からシリーズでパンフレットを 『江戸の都市計画』。 に同じシリーズで二刷りをだしたのが の部分を再構成して出版したもの。同時 江戸の都市計画 隅田川 正之さんが 会員の島

子孫に伝え残していく」思いで綴られて います。 わいと安らぎのある粋な東京の下町を、 た芸術品です。歴史と伝統をもち、にぎ 知恵や労働力や資本をだしてつくりあげ 「まちは、人びとが長い時間をかけ、

念に追いながら、建築工法、水、町割り 四四平方キロ、約三〇〇町だったものが 八四三年頃)。一六四四年には市街地は 代に築いた江戸の町。一五万人都市(一 七一九町に達します。その拡大の後を丹 六〇七年頃)から一三〇万の都市へ(一 一八六五年には八〇平方キロ、町数も一 武蔵野台地に、家康以降三代の徳川時

など検証して記述しています。

「まちの寿命は、三〇〇年から四〇〇年」といわれるなかで、熟成した江戸がすべきか、「隅田川市民交流実行委員会東京に変わりますが、その東京で何を残東京に変わりますが、その東京で何を残東京に変わりますが、その東京で何を残れば贈呈下さるとのこと)

□は 高知新聞社が一九九○年四月売中。一組五○○円(〒¥一七五)。八景」(小野誠一郎画八枚一組み)も販隅田川市民交流実行委員会では「隅田川本民交流実行委員会では「隅田川

以下、「樹々のはざまで」「消えゆく防 が連載トップで語る「リレーインタビュー た山村・林業振興の報告者」として登場)。 の未来はどうあるかーで大内・富山対談 市長、岡和夫元農工大教授らも登場し グループ連絡協議会会長、榛村純一掛川 の評論家の富山和子さん、真砂典明林研 めて発刊しましたが、大内力会長や会員 きます)「『川下』はいま」「木づくりの に囲まれた『営林署村』での振興策を説 森林時代の到来を願います(¥2300)。 人」「森のクミアイ」「国有林の素顔」 「山よー明日の指針を求めてー」をまと 営林署村」(榛村市長が登場して国有林 (真砂さんもこの章で「地域一丸となっ 四六六ページの大冊は一二部構成。山 から二年間同紙に連載していた

唱が、どれだけ禄を守っている人たちのようになった。しかし、問題はその大合め、この声」と続きます。これでも分かけ、この声」と続きます。これでも分から、での声」と続きます。これでも分から、での声」と続きます。これでも分かる」(岡和夫元農工大学教授が森林の公国へ」「子供たちの目」「水は問い掛け国へ」「子供たちの目」「水は問い掛け

受賞。 ・ では、どれだけ緑を守っている人たちの ・ では、地域に思いが、企画に結実してい ある」という思いが、企画に結実している ある」という思いが、企画に結実している ある」という思いが、企画に結実している があってはならないので ある」という思いが、企画に結実している をする目と『林業』・『山村』を はならないので はならないので はならないので はならないので はならないので はならないので はならないので

集を自費出版されました(非売品)。

林木林(ざつぼくりん)

木三郎さん

・ 会員の黒

満七○歳で九二年三月早稲田大学を定 年退職され、愛知大学と通算すれば四一年退職され、愛知大学と通算すれば四一年退職され、愛知大学と通算すれば四一年退職され、愛知大学と通算すれば四一年間を愛し、先輩を敬い、友人を大切にし、教え子の行く手を思い、音楽や"かっし、教え子の行く手を思い、音楽や"かっぱ"にも傾倒する筆者の面目が躍如としています。

筆者の多才な一面も伺えます。

「自分史抄」「仮ぶ」の六つにまとめられて編まれています。農山漁村の調査や学で編まれています。農山漁村の調査や学の紹介、自らの軌跡をたどったもの、風の紹介、自らの軌跡をたどったもの、風の紹介、自らの軌跡をたどったもの、風の紹介、自らの軌跡をたどったもの、風の紹介、自らの軌跡をたどったもの、風の紹介、自らの軌跡をたども添えられて、場間の表表す。

秋田・阿仁町/高堰祐治昔話集会

刊を出されました(¥1500)。 野添憲治さんが、民話と文学の会から新

秋田県阿仁町に住んでいた高堰祐治さん(故人)から、野添さんが聞き取ったるは、一九七六年に約七か月かけて高堰さんから七一話を取材しましたが、一○話は知っていた高堰さんはでいた高堰祐治さ

報恩・仇討ち・化身など、昔語りの原報恩・仇討ち・化身など、昔語りの原ます。動物や植物とも共生する先人の暮らしも垣間見れて、日本人の原点をたどらしも垣間見れて、日本人の原点をたどらしも垣間見れて、日本人の原点をたどるとも言える一冊です。

森林環境と流域社会を見の北尾邦

## 際とともに生きる

## 会議編で初の刊行

## 森とともに生きる

えます。 が、家の光協会から「エコロジカル・ラ 森林会議としての記念になる出版ともい れました。昨年結成一〇年を迎えた国民 イフ」シリーズとして昨年一二月出版さ 国民森林会議が初めて編集した啓蒙書

する必要と、国民が行政をチェックし森 た森林の保全・充実にむけて日本が努力 林なのか」と題して、地球的な問題となっ 会員が分担して執筆しています。 序章では大内力会長が「いま、なぜ森 全体は六章で構成されており、八人の 林つくりに参加する重要性

を説いています。 とそれぞれの森林の特色 の分担。気候区分と森林帯 日本の森林」で永田信会員 第一章は「世界の森林・

> の構成。 森林と共生するレクにより、森林の効用 画や経営が必要と考えております。その などの従来の『森の恩恵』以上のものを ためには、環境保全型農林業を追求し、 森から感じており、それを満たす森林計 筆者は、国民は「木材供給や国土保全」

> > です。

動のかわりなどで克明に拾われているの 手の分析、林業労働の歴史、自然保護運 の市場形成や公的資金投入の実例、担い

在り方まで問うた本。

Ⅰ序説―森林化社会と森林・林業、Ⅱ

環境」を維持する林業や「流域社会」の 表してきた諸論文に手を入れて、「森林 しようとする筆者が、一九七五年以来発

への社会資本の投入―滋賀県における公 流域社会の原形と変容、Ⅲ森林環境整備

> 接近、Ⅵ終章―「森からの時代」、補論 動き、V森林化社会学―知床問題からの

現して、林業の経営主体は協同組合的な もので担当することを想定しています。 を理解した国民の合意を得て支援策を実 筆者がそうした結論を得る過程が、流域

社造林、Ⅳ林業における「産地形成」の

000)

閣出版から新刊がだされました(¥48

「林学を『林学環境学』として再編

間は少ないと警告し、日本の「森林があっ 現状が説明され、熱帯林には残された時 て林業が成り立たない」危機を説明しま

説くのです。 する現状から、その位置付けの必要性を の森林の役割と、その社会的評価を模索 北尾邦伸会員が担当。環境・資源として 第二章は「森林の働きとその評価」で

でも何が失われたかを問います。 の森で暮らす人々の生活を題材に、日本 増田美砂会員が筆をとり、インドネシア が必要と述べます。 機脱出には、地域の振興と林産業の協力 た跡を素描し、森林を管理する林業の危 岡和夫会員が執筆。戦後の林業がたどっ 第四章は「森林と人とのかかわり」で 第三章は「日本の林業とその経営」で

> 化を一 して、都市から山村、国際時代の森林文 沢譲会員が受け持ち、各地の森林とかか わって教育や地域を活性化した例を紹介 第五章は「森林と生活、文化」で、 ―と提起しています。

り方を説きます。後半では、「木材資源 すめるか」で、前半を熊崎実会員、後半 と呼びかけています。 で環境財として評価した」林政の歴史に 中心だった林政が、自覚した国民の運動 発展途上国の森林復活への国際協力の在 は「熱帯森林喪失と日本の責任」を述べ、 を木原啓吉会員が書いています。前半で 言及し、住民参加の林政を求めて行こう 第六章は「森林の保護と再生をどうす

(¥1500)°

## への消息

ジオの「地球を長持ちさせよう」でもコ 9時から午後4時までのナマ放送にコメ ンターで出演。また、12月30日NHKラ を伝えて40年」を放送、富山さんは午前 「昼の憩い ―― ふるさと 11月23日NHKラジオが

> メンターで出演。 秋山紀子

しても出演。12月16~29日までスリラン 生」のテーマで講演。その後パネラーと 国有林を育てよう」に「森林と人間の共 シンポジウム「親しみある 12月1日中国新聞主催の

> するドイツ政府主催の会議に参加。 日ベルリンでのECの環境政策など討議 問題などが協議される予定。1月6~15 会議に出席。自然保護、環境教育、ダム カでの国際協力のありかたをめぐる国際

## 슾 の 動 含

▼第48回幹事会 参加者(敬称略)大内、内山、北 村、杉本、田中、半田、松沢、 7月11日 学士会分館

のプロジェクト委員に加え、内 22日に半田・佐野・野村・北尾 「国民と森林」で報告。 山・杉本幹事も加わり調査し 出版活動 定点調査 海山町については、8月19~

を主査、内山節委員を幹事とし などの協議結果を報告し了解。 提言委員会の進行 家の光協会と執筆者やテーマ 6月18日の会合で高橋裕委員

> 画をたて実施。 て発足、当面のヒヤリングの計

じて返納(国民森林会議は約13 を生じ、出資団体へ出資額に応 告書も発行した。決算でも剰余 成功のうちに終わり、別途報 一森は友だち」結果報告

熊崎実(筑波大学教授) 水口憲哉(東京水産大学助教授) 内山幹事推薦

5

会員加入承認

▼第49回幹事会 加入同意があったと報告。 前回幹事会で推薦、剱持さんの 剱持浩裕 (全国山村振興連盟常 務理事) 萩野事務局長推薦 学士会分館 12月15日

参加者(敬称略)大内・秋山・内

提言案について

事務局で成文化し協議する。 ③森林・山村・林業の再建を考 などの意見がでた。次回までに える集会の組織。

②九州でシンポなど開くことの 2月2日の委員会で決定。 月10日協議、各委員の意見を12 換。素案については委員会で12 山・北村・杉本・松沢・萩野 月25日までに集めて成文化し、 ①阿仁町の定点調査は現地の会 総会議案のフリートーキング 年秋現地で幹事会をかねた集 員を中心に準備をすすめ、93 会を開く構想。 委員会の素案について意見交

草鹿平三郎(農民) 会員の承認

> 速水亨 速水勉 鈴木水映 堤康次郎 (品川機械工業所社長) (速水林業社長) 森林フォーラム世話人) (横浜労災婦長、森林 フォーラム世話人) 内山幹事推薦 内山幹事推薦 半田幹事推薦

水口憲哉・熊崎実(筑波大学教 \*今後ご本人に加盟を勧誘 授)前回加入を承認し本 あったと報告。 人にすすめ本人の同意が 内山幹事推薦

月13日午後4時半から開く (学 士会分館) 次回 幹事会と評議員会を兼ねて2 (総会議案審議) のための配分先のひとつとすべきであろう。

### ⑤ 技術・装備および労働力の活用

すでにみたように、今日の日本では、林業労働力の枯渇、林業技術の継承の断絶を真剣に懸念しなければならない状況が日増しに深まっている。その中にあって、国有林労働者は貴重な技能集団であるから、今政府が目指しているように、財政上のつじつま合わせのためにこれを削減するのでなく、むしろ積極的に増強し、民有林をふくめた森林整備に有効に役立てるべきである。その技術・装備も同様である。そのためにも地域の住民各階層の自主的協議を活した流域管理システムを確立する必要がある。

### (5) 政府の責任ある実行努力と関係者の協力

① 国土計画における森林の明確な位置付け次に策定される第5次全総計画において森林に明確な位置付けを与え、それにもとづき自治体に当該地域内の森林についての土地利用計画を策定することを義務付け、森林の保全がはかられるようにするべきである。現行土地利用計画は、都市計画法の対象地域に限られているが、この趣旨にもとづいて土地利用法制度を早期に改正すべきである。

② 省庁を超えた実効ある対策の推進

農山村の振興対策は、多岐にわたる問題を含んでおり、実効ある振興策を実現するためには、農山村の維持・振興に必要な権限を大幅にその地域の自治体に委譲し、あわせて、国の行政としても各省庁を横断して実効ある政策が実現できる体制を確立することが必要である。また、自治体が自主的に使用できる十分な財源措置を講ずるため、上述の地方交付税の算定基準の見直しが必要である。さらに将来は、森林にかかわる法制度の整備(林業基本法と森林法との関連、位置付けを含む)や、中央省庁縦割りシステムの改革=たとえば「国土環境森林省」の創設なども検討されるべきである。

### ③ 経済界などの協力

以上の諸点の実現のためには政府の責任ある実行努力が必要であるだけでなく、電力・建設・バルブ・住宅などの関連業界の協力など、経済界の積極的対応も不可欠である。しかし何よりも国民が森林の危機の実態と、それによって生じるであろう地球規模での環境破壊の重大さに十分な理解をもち、事態の解決のため政府や自治体を督励するとともに、おのおのの立場でそれに力を尽くすことが重要であることはあらためていうまでもない。この提言はそのことを広く国民に訴えるのものである。

1992年12月2日

えは、基本的には木材の生産から最終の加工ま 海山町においても総合的な木材利用のシステム 発途上国、 を軽減することと、加工時の寸法安定などの厳 でを川上で行ない、流通における無駄なコスト ストレスが徐々にではあるが可能な方向に向け とである。これは至難の技であったが社会的な の相反する仕組みを新しい枠組に組み替えるこ である。 かも耐用年度を長くさせて利用するということ を確立することを急ぐことが大切であるように であるが、 できることになった。このことの詳細について たため、 テムの開発により、間伐材や、未利用材の寸法 材質改良と乾燥を連続して行なう木材処理シス 木材加工システムを作り上げることが出来なかっ 番厄介な問題であったため、川上での総合的な 密な規格化を計ることである。 る圧力になりはじめている。この枠組の組み替 安定法が飛躍的に増大し、規格化が可能になっ べたように素材そのものをいかに有効に、 木材の総合的利用の要となるのは、 しかし、筆者等が現在進めつつある木材の 紙面の都合上、 素材を中心とした多様なニーズに対応 さらに、関連産業でありながら、 先進国を問わず時代の要求である。 木材生産地での高度な商品化は、 別の機会に紹介するつもり (京都大学木質科学研究所) 後者の問題が 前項でも て森を見ずどころか、木材を構成する組成分の(11ページから続く)

ても、また、木材を単なる投機の対象でしかなほんの一部しか知らないで森を見ない類が集まっ

いと考えている者が集まってもなんら解決は生

れないであろう。

37

派遣業務を行うことを可能にする方式も工夫されるべきである。c) 若年労働者の確保に資するため、10年以上の就労予定者を対象にした若年労働者確保奨励金を交付することも考えられていい。

- d) 労働者確保のための基金制度を創設する必要がある。現在は都道府県ごとの地域に基金がつくられているが、財政力のある地域とそうでない地域との差が大きく、効果的な制度となっていない。国はこれを全国共通の制度とし、かつファンドの充実にむけた助成を図るべきである。
- e) 技能訓練校に森林管理・利用部門を設け、技 術の伝承をはかる。また、訓練手当をつけた転 職訓練を実施し、Uターンを奨励することも必 要である。

### (4) 国有林の役割の発揮

わが国の森林の復興のためには、森林面積の30%を 占め、国内最大の森林経営体である国有林が果たす役割 はきわめて大きい。とくに戦後の造林政策によって初め て全国各地に広く「地域林業」の基盤が成立したなかで、 国有林がその「地域林業」においてどのような役割を果 たすべきか、が問われているといっていい。しかしその 国有林は経営的に瀕死の状況にあり、その役割を果たし 得なくなっているのみでなく、とくに奥山に多く分布し ているだけに環境保全により大きな役割を果たすことが 求められているにもかかわらず、それさえ満足に遂行し えなくなっている。現在国有林に求められる最大の課題 は、国有国営の長所である国の政策をただちに具現でき るという機能を生かして、地域に溶け込んだ経営によっ て農山村の振興に寄与し、また環境保全への要請にも十 全に応えることでなければならない。そのためには、こ うした国民の要請に応え得る経営展開を可能にするよう な財政基盤を確立し、所有の枠に閉じこもらないで、森 林法改正の目玉となった流域管理といった観点のなかで 改めて民有林と一体の経営を追求することが必要である。 そのさい採られるべき方策を列記しておく。

### ① 機能類型に見合った施業と費用負担

まず、定められた機能類型にそった施業によって、森林を維持強化し、自然環境の保全力を増大しなければならないが、本来そうした施業は経済的ベースには乗らないものであり、採算を考えるべきものではない。もちろん事業の効率化や土地貸付料金の適正化、販売努力などに努めるのは当然のことであるが、必要な施業にとって不足する費用については、

公共投資として一般会計から繰り入れるべきである。 このような原則をきちんと確立することが不可欠であるが、とりあえず現行制度では民有林に比べて低い水準にある一般会計からの繰り入れを緊急に民有林並みにし、民有林の助成制度の充実と合わせて均衡を図るべきである。

### ② 累積債務の処理

累積債務が正常な施業遂行の足かせになっている 現状は、早急に解消されなければならない。もとも と累積債務は、戦後の木材需要の急増期に当時の外 貨事情もあって無理をして国内資源で対応しなけれ ばならなかったことに端を発し、その後の保安林の 買い入れや、市町村合併促進・開拓地への開放など による資源荒廃・資産の質の低下や、木材市況抑制 などがつづいた結果として累積したものである。い ずれにしても、累積債務はこれを切り離して別途処 理しなければ国有林の経営を安定させ、その果たす べき責務をまっとうさせることは不可能であるのみ か、森林の荒廃を深めるばかりであることは明白で ある。また、現在の国有林の経理決算の方式では、 公益的機能や、森林の資産内容の充実などが表示さ れない。もちろん国の会計原則に従ったやり方も必 要であるが、国民に分かりやすい経営実態を知らせ るために、それとは別に年々「国有林白書」を作成 して公表する必要がある。

### ③ 土地の活用

現在しばしばみられるように、国有林の土地・森林を売り払うのではなく、これを国民共有の資産として確保し、国土の均衡ある発展、緑にたいする国民のニーズなどに合致した用途に振り向けるべきである。それには、地価抑制の視点からいっても信託・貸付けなどの制度を活用すべきであるし、国有林財政への無利子のつなぎ融資制度なども必要となるであろう。なお国有林も含め地域の土地利用を有効に行うためには、地域森林協議会(仮称)を設置し、その方針にもとづいて例えば森林都市としての活用をはかることなども一考の余地がある。

### ④ 国民参加の森づくり

現行の分収育林は、収入対策の面が強いが、これを国民参加の森林づくりの方策として位置付け、制度を民主的に活用して、都市住民と森林との接近をはかるべきである。また、地域住民の意向を国有林の施業や経営に適切に反映させるシステムについても検討し、「国民共有の国有林」を指向することも考えられなければならない。前述の日米構造協議で決まった今後10年間の公共投資430兆円の使途の一つとしてそれらに真剣に取り組み、国有林をそ

自治体が主導して、地域内の森林の望ましい役割 分担の明確化を提示できる制度を設けるとともに、 それにもとづく国・公・私有林の共同の統一的施業 計画を策定することを工夫すべきである。

### ③ 木材自給率の向上

政府の長期見通しによる2004年の自給率は40数%とされているが、このままでは労働力の枯渇や資源整備の状況からみてその達成は困難である。「国産材時代」は掛け声倒れになろう。他方、外国の資源状況や環境問題の重大化からみても、外材輸入にいつまでも頼ることは許されない。従って国産材の利用を積極的に推進して、21世紀初頭には少なくとも50%以上の自給率を達成することを目標として政策を展開するべきである。そうなれば木材価格も国産材を基準として形成されることになるであろう。そのためにとりあえず考えられる方策をあげれば次のようになる。

- 1) 地域ごとに「街なみ景観」目標をつくり、その もとで風土に適した在来工法による木造建築物の 建設を地方木材市場と結びつけつつすすめる。そ のためには強力な地価抑制策と、木造建築物にた いする諸規制の是正および一定の助成措置が必要 である。
- 2) 役場、学校などの公共建築物および住宅供給公 社などの行う公的建築の国産材化と国産材使用の 奨励策をとること。
- 3) 木造建築教育の体系の確立と、工業・農林高校 における「木造住宅建築科」の新設並びに木造住 宅建築の訓練校の設置。
- 4) さまざまな器具、家具、什器などについて、木 製品が工業製品と比べて経済的にも太刀打ちでき るよう、国産材の加工技術の開発にたいして十分 な研究費を投入すること。
- 5) 森林資源の有効活用のため、価格差補給制度を 導入して、未利用間伐材・気象被害木・虫害木な どのバルプ資源としての利用をすすめること。
- 6) 林地残材利用のチップ工場を助成し、資源の有 効活用をすすめること。

### ④ 林業の振興

このように一方で国産材の需要を開発するとともに、他方ではいま不振のどん底にある林業の回復・振興をはからなければ、森林の維持・管理もできないし、木材自給率を高めることも望めない。そのためにとりあえず、次のような対策が早急にかつ強力に展開されることが要請される。

1) 森林管理路網の整備や高性能機械導入にたいして公的助成を拡大すること。ただし、林道につい

てはその役割、通行車両の種類を明確にし、必要 以上に高規格なものとせず、その地域の利用目的 に適したものにすべきであるし、林業用以外の車 両の進入を規制することも必要である。

- 2) 森林災害共済保険の一本化と資源維持の期間の 掛け金の助成を行うこと。
- 3) 林地・農地の転用を原則的に禁止し、地元に土 地利用計画の作成を義務づけその実現のために助 成を行うこと。
- 4) 森林組合の機能を拡大強化するとともに、その 助成を充実すること。

森林組合が地域の森林育成と山間地域の維持に 果たす役割を正当に評価し、次のような助成を具 体化する必要がある。また、地域の要求に従って 地域に関連する協同組合(農協・漁協・住宅生協 など)が連携して一体的な運営ができるようにす る措置も考慮すべきである。

- a) 主要消費地に木材・木製品の販売拠点を設けることへの助成を行うこと。
- b) 不在村森林所有者などの増加により、森林 管理のための境界確定が困難になり森林整備に 支障をきたしていることにかんがみ、境界確定 の公示制度や、境界の確定作業についての助成 を行う。
  - c) 流域管理システムを機能させるため、林 業機械化センターや林業労働センターを地 域の実態に即して設置し、そこに国からの 助成を集中する。

### 5) 労働力対策

- a) 農山村の住民は日常生活のなかで森林の維持管理を行っているのであるから、自家山林管理の作業を評価し奨励措置を強めること、技能をもつ高齢者や女性の役割をも重視し、社会保障制度の適用をも含めてそれらの人々に働く場を確保する措置をとることなどが工夫されるべきである。
- b) 専業労働者の確保は、労働条件の改善(十分な水準の固定給、都市労働者なみの社会保障、年金・退職金・ボーナスなど)が必要なことはいうまでもない。現在それらの実現のために導入されている、いわゆる第3セクター方式は注目に値するが、その負担には限界もあるので、そうした労働者確保対策を行っている第3セクターなどに国公有林や森林組合などが事業委託をした場合には、高率補助にするなどの配慮が必要であろう。また、その労働者に安定的雇用を保障するために、第3セクターが広域の人材

協調して、熱帯林の再生・維持のため輸入木材に一定額の課徴金を課し、その収入を「熱帯林再生基金」とする制度を国際的に設置することを国連やガットに働きかけるべきである。それによって輸入木材価格は上昇するであろうが、それは国内における木材の浪費に歯止めをかけるとともに、国内の林業を活性化するうえでも一定の効果をもつであろう。

## ② ODAによる木材および林業技術援助

ODAによる途上国への現物援助のうちに国内の間伐材など未利用材を加え、国内森林の充実と海外森林の保全のための活用をはかるべきである。また、途上国で多く消費されている薪炭材・竹材の利用効率をあげ森林資源保護に役立てるために、日本のすぐれた製炭・竹加工についての技術移転を積極的に推進することも重要である。熱帯林の再生のための技術の研究・開発につとめ、専門技術者および必要資材の供給を拡大すべきことは、あらためていうまでもない。

## ③ 輸入材にたいする浪費的使用の規制

この点では、例えばコンクリート・パネルの使用 寿命を長期化すること、それをラワン合板から他の 材料へ転換すること、古紙の回収・利用率を高める こと、過剰包装・過大広告を抑制することなど多く の課題がある。それについては国民の自覚を促し、 その協力をとりつけることが不可欠であるが、政府 が必要な規制措置(奨励を含む)を講ずることも考 えなければならない。

(2) 農山村に人が住み森林が維持できるようにするために

### ① 農林産業全体の振興

農山村に十分な人口を定住させるためには、何よりもその産業的基盤を確立し、十分な雇用と所得が確保できるようにすることが重要である。そのためには、まず林業振興が図られなければならないが、現在は日本の多くの森林とくに1950~60年代に植林された人工林は、資源熟成前にある。それらは、今行わなければならない保育の手を抜くと、将来の有効活用は不可能になる。したがって現状では間伐等の必要な保育が適正に行われるような措置を講じ、それを林業における雇用と所得との確保に結びつけるような施策が格別に重要である。除間伐にたいする補助助成措置、間伐材にたいする補助による有効利用の促進などはその一助になろう。

しかし、全体としては、適当な国境措置(上述の 課徴金)、後述の国産材の利用促進などにより林業 の振興を図ることが必要である。そうはいっても農 山村の経済は林業だけではなり立たない。他方にお ける農業振興、地元資源の活用にもとづく加工産業 の開発、健全なリゾート施設の整備とそれにともな うサービス産業の育成方策を総合的に考える必要が ある。

## ② 農山村への定住条件の整備

農山村への定住を促進するためには、①とならんで、都市なみの社会保障(年金・雇用保険・健康保険等)、医療・衛生の水準、農山村にふさわしい文化施設や交通体系の整備が不可欠である。また通学可能な範囲に高校を設置するなど教育制度も充実されなければならない。そのための費用としては、後述の日米構造協議の結果として決定された公共投資額430兆円を活用することが考えられる。また、さまざまのすぐれた知識・技術・技能を持つ人々、とくに都市生活にあきたらない人々が農山村へ戻ってそこで定住しうるような方策を講じるべきである。

## ③ 都市との交流による山間地域振興

森林および農山村は都市住民にとっても、子供たちの自然教育の場、大人の心身のリフレッシュ、余暇のための空間、引退した人々の静穏な余生の場などとして貴重である。地元民も都市住民と一緒にそういう点での農山村の維持を求めている。こうした本来の意味でのリゾートの開発は、資源の保全をはかりつつ、外部資本に依存するのでなく地元の創意と産物とを利用した手づくりのものでなければならない。

また、学校においても、森林にかかわる教育を充 実し、農山村との交流を密にするような取り組みが 肝要である。

### (3) , 森林に代表される環境を守るために

### ① 森林維持・整備のための対策

- 1) 森林が環境財=公共財として重要なものである ことを評価し、地方交付税の算定基礎に森林面積 や標高差を加えるなど交付基準の是正をはかり、 農山村の財政力を強化すべきである。
- 2) 森林の維持は経営の継続を必要とする。税制の 改善等によって経営放棄、若齢林の伐採、山林の 売却による乱開発などを防止しなければならない。
- 3) 不在村所有者の施業放棄森林については、現行 法による施業代行制度を一歩すすめ、自治体や国 (国有林)が裁定によってこれを管理するなどの 方策を具体化するべきである。
- ② 森林の役割の明確化と施業計画の共同化

日本の環境を改善するだけでなく、それを世界の森林の 保全・回復の一助とすることである。もちろんわが国が 途上国の森林の復興のために資金、技術、装備等を提供 し、自らが破壊した森林の償いをすることもそれと並ん で重要である。しかし、自国の森林をきちんと整備でき ないような状況のもとで、外向けにいい顔をしてみても、 国際的信用をえることは不可能であろう。

だが、今日ではこの国内の森林の立て直しは、著しく 困難な問題となっている。というのは、今では多くの農 山村が過疎化・高齢社会化を通り越して近い将来の無人 化さえが予想される状態になっているために、肝心の森 林の保育・保全を担当する人がいなくなり、それが林業 を衰退させるとともに、森林を荒廃させることになって いるからである。もちろん農山村をここまで衰退させた のは、これまでの政府の政策の過誤によって、農林業の 産業としての成立が困難になり、その衰退が決定的になっ たためであるが、今やそれは、無人化がすすむことによっ て農林業が維持できなくなり、それが環境保全をすら不 可能にするという、いわば最悪の段階にまで深刻化して いるのである。

この意味で、今何よりも求められているのは、農山村 の活性化をはかり、そこに十分な住民の定着を促すよう な方策を強力に展開することである。それは国民にとっ て必要なだけでなく、日本の国際的な責務であることを あらためて強調しておかなければならない。

日本において、山村振興がとりあげられ、山村振興法が施行されたのは30年近くも前のことである。爾来、政府は一応の施策を行ってきたことになっているが、それはほとんど実効をあげず、今や農山村の消滅の危機が迫っている。ここで抜本的に政策を再検討し、まったく新しい視点に立った施策を強力に展開しえないならば、わが国は国際社会の一員たる資格を喪失する以外にない。

こうした切迫した事態に対処するための方策を、ひとり政府、自治体にたいしてだけでなく、広く国民に提示したいというのが、この提案の本旨である。多くの国民が真剣にわれわれの憂慮を受けとめ、この提案を検討したうえで、国民の森林と山村の復興・再生のために一層の努力を払われるようになることを切望してやまない。

### 2 基本的な課題

森林は地球環境にかかわる貴重な資源であることから いって、まず以下のような基本的な課題が解決されなけ ればならない。

### (1) 地球的な森林保全と育成

毎年1700万haが消滅しているといわれる熱帯林、自然保護との関連でその減少が問題とされつつある北米・ロシア等の森林の保全のために、世界最大の木材輸入国であるわが国は新たな対応を求められている。そのための資金・技術援助の拡大だけでなく、国内の浪費的な木材消費の規制、国内未利用材の積極的活用などが検討をされるべきである。4分に1にまで低下したわが国の自給率を積極的に高め、外国の森林に過大な負担をかけないようにすることも必要である。この意味で、国内森林の整備、林業の振興はいまや国際的な責務となっているといわなければならない。

また、自由貿易促進のためという名目のもとに、各国の環境保護や消費者保護の基準を引き下げようとする動きがガットなどに見られるが、こうした動きは、地球環境維持にとってマイナスをもたらすものとして厳重に警戒し対処しなければならない。むしろ、環境問題に有効に対処しうるように、一次産品貿易を国際的に管理するようなシステムの開発を積極的にすすめることをガットに提起しその実現をはかるべきである。

## (2) 農山村の振興と森林の充実

わが国の森林は国土の67%を占め、林産物の供給だけでなく、国土保全をはじめ水資源かん養、大気浄化、自然休養などに大きな役割を発揮してきた。その森林を健全に維持するためには農山村の住民の果たす役割が極めて大きいことはいうまでもないが、その農山村は今では過疎化・高齢化が極端にすすみ、このままでいけば近い将来に国土の多くの部分が人の住まない空白地域となることが危惧される状況に陥っている。政府は1960年代から山村振興の旗をかかげてきたが、省庁間の縦割り行政、地方財政の貧困、乱開発の進展、林業の不振などの煽りを受けてほとんど実効はあがっていない。

今日では森林の維持のためにはなによりもまず農山村の復興、活性化が図られなければならないが、そのために農山村に定住できる諸条件を整備するとともに、農林業を振興することが国民的課題となっている。

### 3 具体的な解決をめざして

以上の基本的課題に対処するより具体的な対策を考えるならば次のようになる。

- (1) 地球の森林を守るために
  - ① 「熱帯林再生基金」制度の創設熱帯材の最大の輸入国である日本は、輸入各国と

「国民の森林政策」提言委員会(代表大内力東京大学名誉教授)は、12月2日『森林・山村の再生のために』という提言を公表し、国民森林会議にも「この提言の実現のためには、各方面の検討が必要と考えます。各位ならびに関係する組織で、この提案を取り上げ、十分なご検討をいただき、森林・山村が活力を取り返せる上で、それぞれのお立場からご尽力をいただきたい」との要請がありました。この委員会の委員の多くの方が、国民森林会議の会員でもあり、会員各位に内容を知っていただくことも必要と思い掲載します。

## 森林・山村の再生のために

1992年12月2日

## 「国民の森林政策」提言委員会 (50音順)

## 森林・山村の再生のために

### 1 いまなぜ提言なのか

1992年は日本国民にたいしてだけでなく、世界の すべての国民に森林の重要性を改めて考えさせる年であっ た。いうまでもなくブラジルで開催された国連の「環境 サミット」は、経済開発と工業化の急進展、近代的科学 技術の独走、人口増加と消費拡大などが相まって、地球 の環境が人類の将来を懸念させるまでに悪化しているこ とを知らせるとともに、環境保全のために、今急激に荒 廃し消滅しつつある地球上の森林を復興し増強すること がいかに大切であるかを、あらためて世界の人々に訴え たからである。それ自体は別に目新しい指摘ではなく、 世界の心ある人々はもう何年も前からそれをくりかえし 訴えてきたのだが、それが国連の場で世界共通の見解と して決議された今となっては、ひとりそれぞれの国の森 林を守り育てるだけでなく、世界の森林の維持・回復の ためあらゆる協力を行うことが、すべての国の政府と国 民の国際的責務となったといわなければならない。わが

## 「国民の森林政策」提言委員会

国の政府と国民もそのことを厳粛に自覚すべき時である。

ひるがえって日本の森林をめぐる状況はどうであろう か。

わが国は67%の森林率をもっており、世界の先進国の中では1~2を争う森林国である。亜熱帯から亜寒帯にひろがる国土は多種多様の森林を発達させており、高温多湿な気候と相まって豊かな森林相が形成されている。他方、国民所得の水準も高く、経済大国であるわが国は、木材の大消費国でもあるが、国内の森林は、その能力を十分に発揮する条件が整えられるならば、そのかなりの部分に対応できる条件を備えている。

だが、現実にはわが国は木材消費の4分の3までを輸入に依存しており、世界で断然突出した木材輸入国となっている。そして、金にあかせて世界中から、なかんずく環境保全のために貴重な熱帯林をもつ途上国から大量の木材を買い漁ることによって、世界の森林破壊の重要な原因になっていることが、今や国際的な指弾を浴びるにいたっている。しかも他面では、国内の林業はこの輸入の圧力を受けて壊滅的不振に陥っており、そのために森林に適正な施業がほとんど行われなくなり、国有・民有を問わず森林の荒廃と衰退とが急激にすすんでいる。

それはただ国土環境の悪化をひきおこし、国民生活にさまざまの被害を及ばしているだけではない。今や日本が国際的責務をないがしろにし、ただ目先の利益のために世界の森林の破壊を促進しているという恥ずべき非難を蒙ることを不可避にしているのである。

この意味で今日本の政府と国民に課せられている最大 といってもいいほどの課題は、国内の林業を立て直し、 自ら必要とするものは自らの力で供給するといった体制 を強めるとともに、日本の森林の回復・増強をはかり、

## 「公開講座」の予定決まる

「公開講座 日本の山村を考える」の本年度の計画がプロジェクトで決まりました。下記の通りですが、毎月第2土曜日の午前10時半から12時半まで開催です。10月2日だけは第1土曜日になります。

会場は東京都文京区本郷3丁目、東京大学構内の学士会分館です。 講師についてはこれから折衝して確定します。

### 〈都市近郊林と山村〉

- 4月10日 「川」の提言を受けて
- 5月8日 水源林問題を考える(横浜市)
- 6月12日 神奈川県の森林保護制度
- 7月12日 森林都市構想について(林野庁)

## 〈外国の森林〉

- 9月11日 外国の森林事情(主として資源)
- 10月2日 外国の森林政策(林野庁)
- 11月3日 東南アジアの森林と生活 (増田美砂講師)
- 12月 お休み
- 1月 "

## 〈山村の振興を聞く〉

- 2月12日 富山県利賀村(宮口早稲田大学教授)
- 3月12日 台風災害後の森林経営の模索

(大分県日田地方の林業経営者)

# 森林の未来を憂えて

## 国民森林会議設立趣意書—

森林を伐りすぎたため、水資源の不安が強まっています。 日本の風景の象徴である松林が枯れつづけています。近年、台風や豪雪で各地の山林が大きな被害をうけました。また、

大規模に造林を進めたにもかかわらず、その手入れはなおざりにされています。 一九六〇年代の高度経済成長のもとで、人びとは農山漁村から大量に都市へ流出しました。とくに林業の分野では、戦後

とに暗いといわねばなりません。 日本の森林は、いま病んでいます。このままではわが国の文化を育んできた森林・山村はさらに荒廃し、その未来はまこ

一、二一世紀初頭までには、地球上の森林の二割が失われるといわれています。人類にとって重要な機能をもつ森林に、私 たちはどのように活力を与え、守り育てていくべきでしょうか。 このような現実を見すごしてよいのでしょうか。いま私たちは、次のような課題の解決を迫られていると思います。

一、森林は、林葉にかかわる人びとによってこれまで辛うじて支えられてきました。このままでは、その担い手を失う日が 近いのではないでしょうか。

一、いま、わが国は、木材需要の七割を外材に依存しています。森林資源の枯渇する中で、開発途上国の森林にどのように 一、いまみられる民有林や国有林の危機的状態は、どのようにして克服することができるでしょうか。 一、山村に住み、林業で働いている人びとと、都市に住む人たちとはどのように手をにぎり合えるでしょうか。 かかわるべきでしょうか。

子孫に残すために、日本の森林はどうあるべきか、いまこそ国民的合意を高める必要があります。 このような森林をめぐる諸問題の解決は、決して林業関係者だけにゆだねておくべきではありません。美しい国土と緑を

を望んでやまない次第です。 期したいと思います。このためには、広い視野と長期の展望に基づいた英知の広範な結集がぜひ必要です。 そこで「国民森林会議」を設立し、広く国民・政府に訴えることを決意するに至りました。多くの方々のご贊同とご加入 私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林業、山村のあり方を方向づけ、提言としてまとめ、その実現を私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林業、山村のあり方を方向づけ、提言としてま

一九八二年一月九日

## 刊 民

玉

第43号

ح

- # 発 行 1993年1月1日
- 大内
- 国民森林会議 〒107 東京都港区赤坂1-9-13 TEL 03(3583)2357 振替口座 東京2-70096
- 定 価 1,000円 (〒共) (年額 3,000円)